

宮古市遺跡分布図

—昭和60年度版—



田代館 (LG03-2038) 全影 (北より)

岩手県宮古市教育委員会
The Board of Education Miyako, Iwate Pref.

序 文

私達の周囲には、郷土の歴史を知る上で欠くことのできない多くの文化財があります。

教育委員会では、これらの様々な文化財を調査・研究し、郷土宮古をつくりあげてきた人々の歴史や文化を、広く市民の皆様にお知らせし、正しく後世に伝え残していくことが豊かな郷土を作る第一歩と考えております。

しかしながら最近、生活様式の変化や各種の開発事業などにより古来から伝えられてきた様々な文化財が消え去ろうとしています。特に埋蔵文化財についてはかつてない危機にさらされております。

このような状況の中で教育委員会では、昭和57年度から市内遺跡の分布調査事業を始め、遺跡保存の基礎資料を作成してまいりました。第4年次目の本年度で第一期の遺跡分布調査を終えるにあたり、遺跡分布図と遺跡地名一覧を本書にまとめ公表するものであります。

本書が埋蔵文化財保存の基礎資料として、また地域史研究の資料として活用されることを望み序文といたします。

昭和61年3月

宮古市教育委員会

教育長 小野 寺 聰

例 言

1. 本書は下記の法及び通知の主旨に基づき作成されたものである。
 - ・文化財保護法第57条の4
 - ・埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化について（通知）
（昭和56年11月4日付け、教文第517号）
2. 本書は宮古市内に所在する埋蔵文化財包蔵地の分布図及び、埋蔵文化財包蔵地一覧等からなる。
3. 本書は下記の遺跡分布調査資料を編集・補正したものである。
 - ・『岩手県遺跡基本図及び遺跡地名表』
 - ・田村忠博氏による遺跡分布調査資料
 - ・『宮古市埋蔵文化財包蔵地等分布図』（昭和53年4月発行）
 - ・『宮古市遺跡分布調査報告書1～4』（昭和58～61年刊）
4. 分布図は『宮古市全図』25,000分の1（昭和60年4月発行）を用い、原寸で分割掲載した。従って各々の分布図は25,000分の1の縮尺であり、図にはスケールのみを付してある。
5. 分布図には東西4km、南北3kmの区画と、この位置を表わす索引記号及び番号が記入されている。
6. 分布図中の赤アミ点で表わした部分は、遺物の分布状況・地形等からみて現時点で把握される遺跡位置であり、遺跡の確定した範囲を表わすものではない。
7. 本書では『岩手県遺跡基本図及び遺跡地名表』に従い、「遺跡コード」による索引法を用いた。分布図及び埋蔵文化財包蔵地一覧の遺跡コードは次のとおり地図上の位置を表わしている。
 - $\frac{1}{C}$ ）基本図の索引記号（宮古市=L.C, K.C, ただしK.Cは市北部の田老・岩泉町に接する一部のみ）
 - $\frac{0}{1}$ ）基本図中の4×3km区画の位置を表わす番号（分布図中区画の角に表示）
 - $\frac{0}{2}$ ）4×3km区画中の1km方形区画位置
 - $\frac{0}{6}$ ）1km方形区画中の100m方形区画位置
8. 埋蔵文化財包蔵地一覧について
 - ・遺跡名称は、登録済の遺跡については不適切なものを除き現在までの遺跡名を踏襲した。
 - ・新規発見・未登録の遺跡名称は所在地の小字名、または通常呼称されている小地名を付した。
 - ・遺跡の概要（遺物・遺構）については、昭和60年度までに確認された内容を記した。
 - ・遺跡所在地については、『宮古市字界見取全図』（昭和57年6月宮古市税務課資産税係調製）及び『地割小字名一覧』により記載した。
9. 分布図と対応して載せた航空写真は、宮古市道路台帳作成に伴い昭和54年8月に撮影されたものである。
10. 本書に掲載の遺漏や新規に遺跡が発見された場合は、追加補正を行い適宜改訂を行うこととする。

目 次

I	はじめに	1 page
	1. 遺跡の分布図について	
	2. 遺跡の一覧表について	
	3. 発掘された宮古の遺跡	
	4. 埋蔵文化財について	
	5. 遺跡のもつ意味	
II	遺跡分布図	4
III	埋蔵文化財包蔵地一覧	39
IV	発掘された宮古の遺跡	51
	1. 縄文時代の遺跡と遺物	
	2. 奈良・平安時代の遺跡と遺物	
	3. 中世の遺跡と遺物	

図 版 目 次

分布図割付図	4, 5 page
--------	-----------

		埋蔵文化財包蔵地一覧	
分布図 1	6 page		
2	8	39	page
3	10	39, 40	
4	12	40, 41	
5	14	42	
6	16	42, 43, 44	
7	18	44, 45, 46	
8	20	46	
9	22	46	
10	24	47	
11	26	47, 48	
12	28	49	
13	30	50	
14	32	50	
15	34	50	

I はじめに

この本は宮古市内のどこに、どのような遺跡があるかを皆さんに知ってもらうために編集されたもので次の三つの内容からできています。

- ・遺跡（埋蔵文化財包蔵地）の分布図
- ・遺跡（埋蔵文化財包蔵地）の一覧表
- ・発掘された宮古の遺跡

1. 遺跡の分布図について

分布図は、25,000分の1の市内全図を15枚に分割して示してあります。4、5ページの割り付け図を見て目的の分布図を探して下さい。市内の北西から東へ折り返し順次番号が付いています。

分布図には東西4km、南北3kmの区画線が引いてあります。それぞれに2ケタの数字が書かれていますが、これは区画の位置を示すものです。また図中の4ケタの数字は、遺跡の位置を示すコード番号で、これらの番号で、うしろの遺跡一覧表の索引を行います。

分布図に赤いアミ点で示しているところが遺跡の位置です。これは土器や石器などの遺物が分布していることや、現地の地形などから考えられる**現在知られている遺跡の位置で、遺跡そのものの範囲を表わしているものではありません**。埋蔵文化財というのは、「土の中に埋れている文化財」という意味で、耕作やその他の原因で、遺物が地表に出てこなければ、遺跡がどこに、どのようにあるのかを確かめることはできません。したがって、遺跡の範囲は実際に発掘調査を行ってみなければ確定できませんし、まだ発見されていない遺跡もたくさんあると考えられます。**開発事業などを行う場合には、分布図に示す埋蔵文化財包蔵地以外の場所についても教育委員会に照会をし、事前協議をするようにして下さい**。

分布図と対応して航空写真を載せてありますが、これは地形や土地利用など遺跡の周囲の環境を見るために付けたものです。

2. 遺跡の一覧表について

分布図の次に遺跡の名称・所在地・概要などが書いてある一覧表があります。表の遺跡コードと書いてあるのは、4×3kmの区画を示す番号と、遺跡位置を示す番号でできています。各区画ごとに並らべてありますので、図番号・区画番号・遺跡位置の順で索引して下さい。遺跡の概要については、今まで知られている出土品等が書かれています。この中で「城館遺跡」とあるのは、中世に作られた城跡や館跡で千徳城や黒田館のような遺跡です。また備考の欄には発見の経過や、さらに詳しい遺跡の内容について書いてあります。

3. 発掘された宮古の遺跡

この本の付編として、今までに発掘調査された遺跡の概要を写真で紹介しています。縄文時代、奈良・平安時代の遺跡や戦国時代の館跡など発掘調査された遺跡のうち代表的なものを取りあげています。

4. 埋蔵文化財について

分布図の項で述べたように、埋蔵文化財というのは「土地に埋没している状態の文化財」という意味で、昭和29年に文化財保護法が改正されたときに法律用語として初めて用いられたものです。他の文化財とは異なり埋蔵されているという状態に着目して分類されたもので、保護制度にも特別な内容が盛り込まれています。

1) 埋蔵文化財の特殊性

埋蔵文化財は土地に埋蔵されているという点から、その取扱いや調査方法が特殊なものになっています。まず第一に埋蔵文化財自体の確認が難しいということがあります。埋蔵文化財は一般的にいて、土器や石器などの遺物の分布によってその所在が明らかになるわけですが、これはある地点で地中に遺物、あるいは遺構が埋蔵されている可能性を示すものにしかならず、埋蔵文化財自体の内容のすべてを表わしているものではないわけです。

他の文化財については、文化財自体の認定や評価が物件内容のすべてに対して成されるわけですが、埋蔵文化財については、これが埋蔵されたままの状態ではその内容、あるいは所在さえも明らかでない場合もあるため、保護の対応には慎重を期さなければなりません。

つまり、埋蔵文化財・遺跡の内容は考古学的な調査方法＝発掘調査を行うことによって初めて明らかになるもので、発掘調査を行ってみなければ正しくこれを認識することができないということになります。また、遺物の分布が確認されることによって遺跡の所在がわかるわけですが、山林や原野など地表で遺物を確認することができない地域もかなりあります。遺跡によっては、住居跡などの遺構があっても遺物の含量がかなり少ないことがあるため、遺跡所在についてもすべてをとらえることは難しいわけです。

2) 埋蔵文化財の保存について

本書は、遺跡保存の基礎資料として作成されたものですが、分布図の遺跡所在地はあくまでも現在のところ知られているもののみを示しており、上記のような理由で、すべての遺跡を網羅したものではなく、これ以外にもまだ多くの遺跡があると考えられています。たとえば、最近では山の尾根の上や斜面など、今まで遺跡所在があまり予想されていなかった場所から平安時代の住居群が見つかっており、未発見の遺跡がまだまだたくさんあることを物語っています。

文化財保護法でも、未発見遺跡の存在を考慮して第57条の5及び6に遺跡の発見に関する届出、停止命令について定められています。これは土木工事等で未知の遺跡を発見した場合には、その現状を変えることなく、速やかに文化庁長官に届け出なければならないとされています。

また、遺跡地図・台帳に記載されていない地域における開発事業にあっても、未周知遺跡の有無を確認することが必要です。したがって開発事業等を行う際には、まず現在知られている遺跡所在地をなるべく避けること、また用地選定の段階で教育委員会と事前協議を行おうにしてください。

5. 遺跡のもつ意味

宮古市内には本書に示すように数多くの遺跡が所在しており、これらのなかには沿岸地域のみならず全県的に見ても重要な遺跡が少なくありません。たとえば縄文時代の遺跡としては、崎山貝塚・楸ヶ崎館山貝塚また磯鶏地区の貝塚遺跡群など沿岸地域に特徴的な貝塚遺跡があり、奈良・平安時代になると鉄の生産や加工にかかわる集落、また尾根上など特異な立地に営まれた集落遺跡も確認されています。さらに市内には30ヶ所をこす城館遺跡があり、なかには千徳城のように規模・構造からいっても極めて重要な城跡もあります。

これらの遺跡には縄文時代から中世あるいは近世に至る人々の生活の営みが、出土してくる遺物のような「物的資料」として、また住居跡や生産跡などの「遺構」として残されており、これらの調査研究を行うことにより当時の生活や文化が解明されていくのです。

このように遺跡には、それぞれの地域における私達の先祖の生活が残されており、それ自体歴史的・文化的な意味を持っているといえます。

またこれらの遺跡から解明された歴史的事実が、地域の人々に周知されることにより「貴重な国民的財産」としての公共性を有することになるのです。したがって現代に生きる私達はこのような文化財の調査研究・保存を行い、正しい理解を後の世代に伝えていく責務があるといえましょう。

「貴重な国民的財産」としての公共性をもつ遺跡を、正しい理解と共に後世に伝えるために、私達は積極的に遺跡の保護をしていかなければなりません。これは私達の世代のみならず、後世の人々にとってもこれらの文化財に対してあらたな歴史的・文化的価値を見出すことができるように、また公共的な活用ができるようにしておかなければならないからです。

かつて、文化財保護が十分に行われていなかった時代には、調査が行われないうまま破壊されてしまった遺跡もあり、地域史解明に大きな空白部分を残さざるを得ない状態となっています。

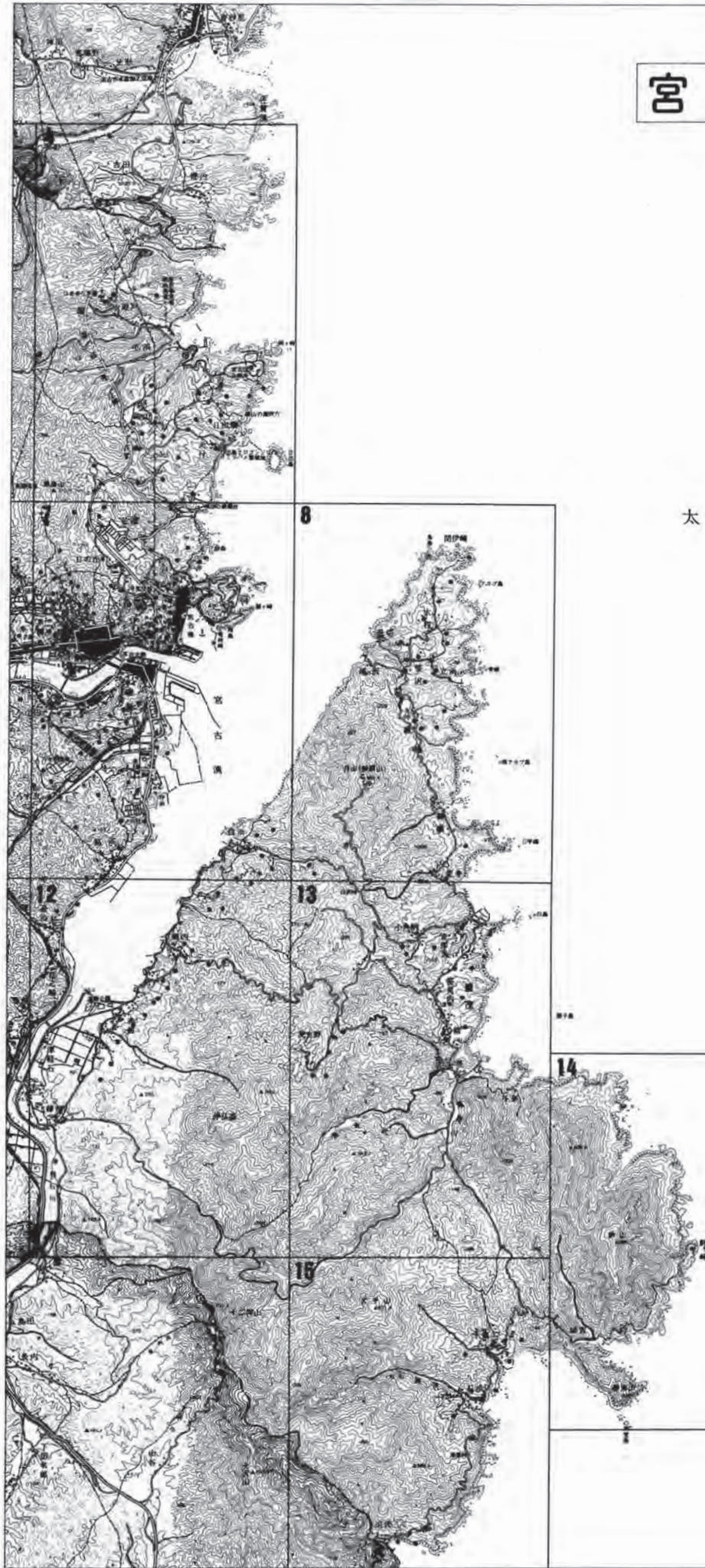
「地域史解明の空白部分」というのは次のような遺跡のもつ性質からおわかりいただけだと思います。つまり遺跡には前述のとおり当時の生活が、状態としてまた物的なものとして残されているわけですが、それらは常に地域（立地・環境）と時期という属性をもっているのです。したがってこの二つの絶対的要素に限定されている以上はまったく同じ遺跡というものは存在しませんし、たとえ同時代の遺跡であってもそれが人間の生活痕跡を残しているという内容から言っても、ひとつひとつの遺跡・遺構から引き出される調査成果は各々意味があるわけです。

つまり、遺跡が破壊されたり、その遺跡のもつ内容が十分に把握されなかった場合には同じ成果を他に求めることができないために、「地域史の空白部分」を生むことになるわけです。遺跡が消滅することは私達の歴史を自ら消し去ることであり、一度なくなった遺跡は再現ができないのです。遺跡の保護が必要とされるのは、このような重要な意味をもっているからなのです。



割付図 1

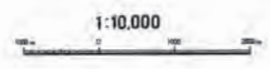
宮古市全図



太



洋



割付図2

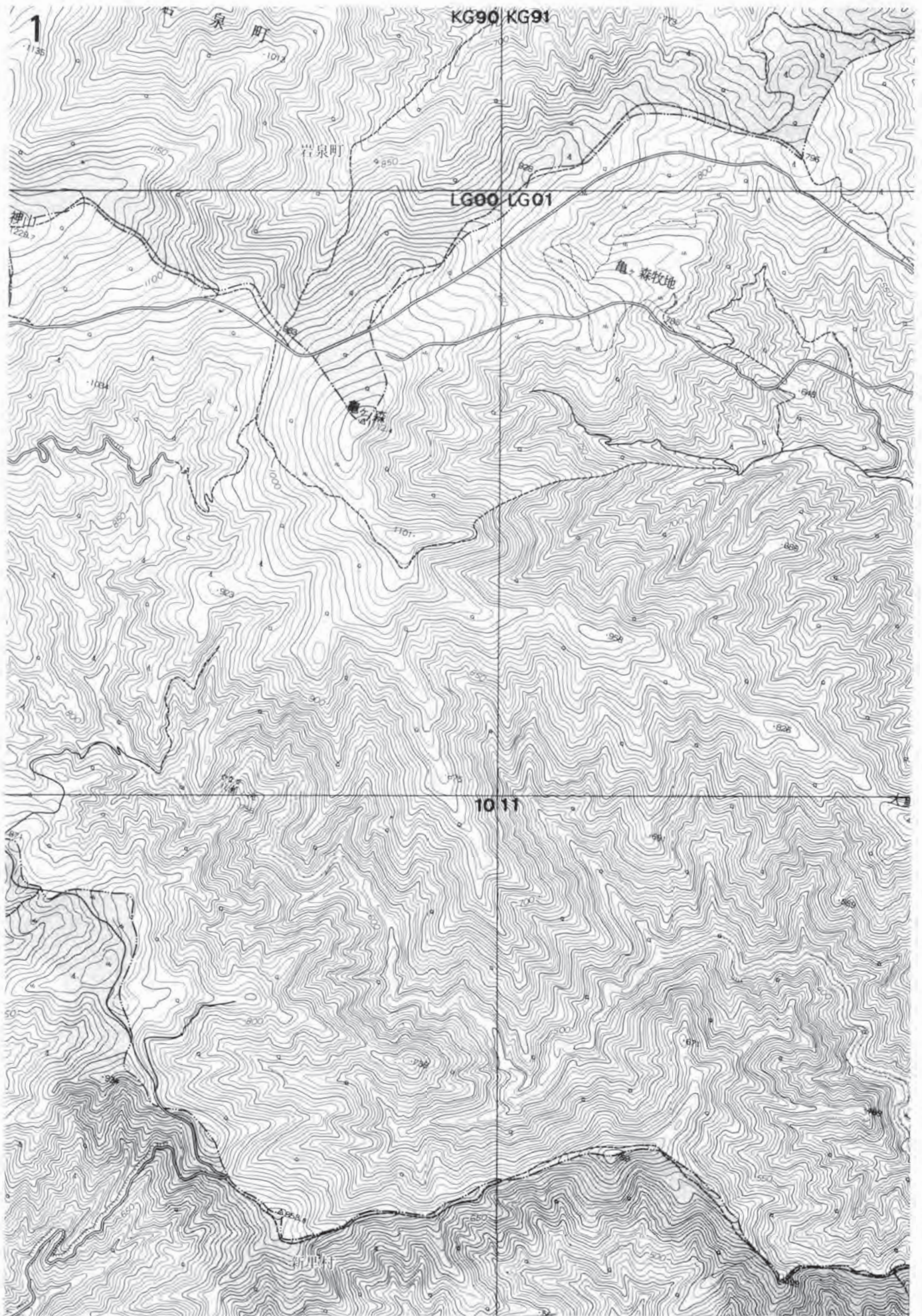


Fig. 1

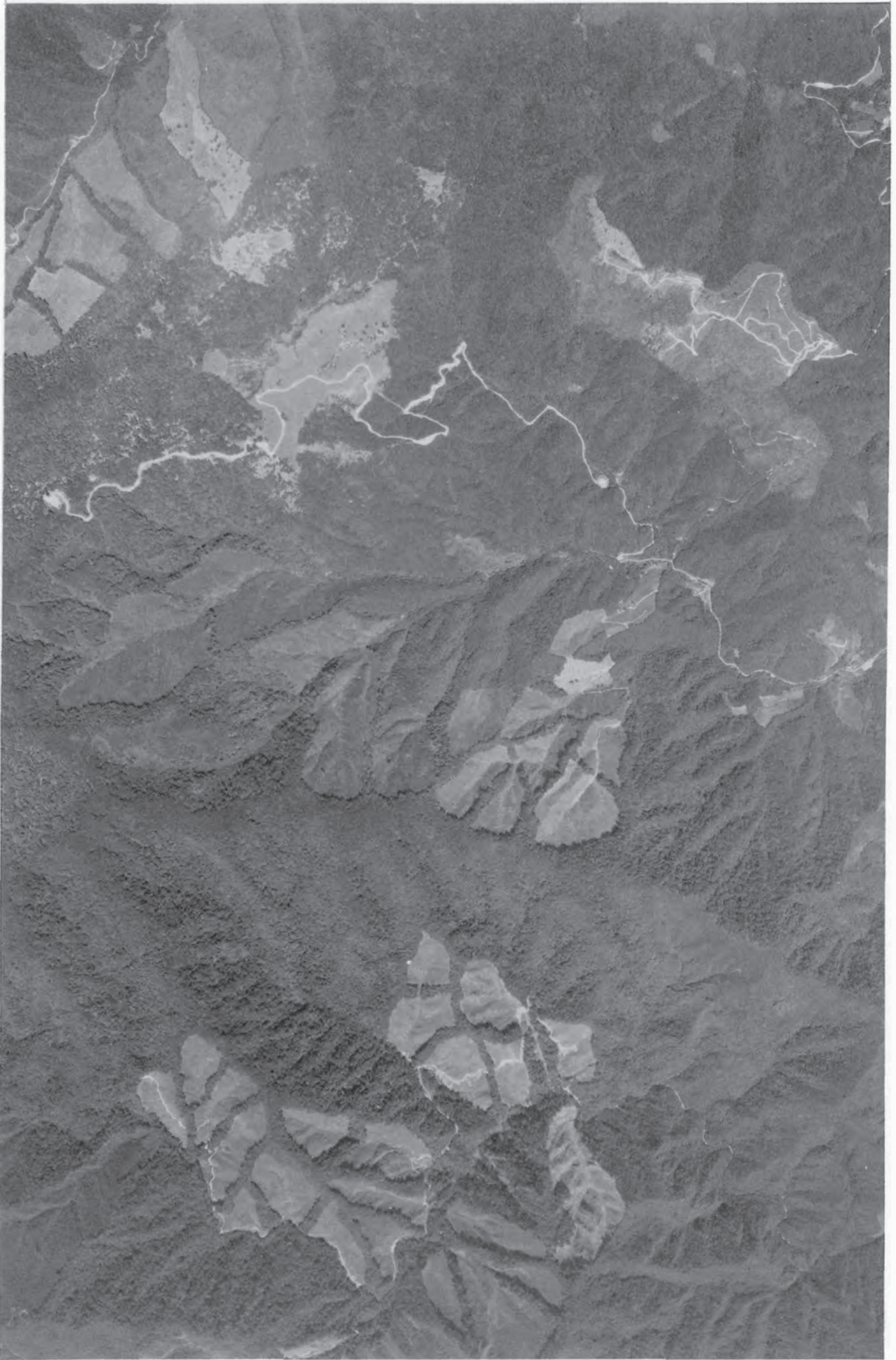


Photo. 1

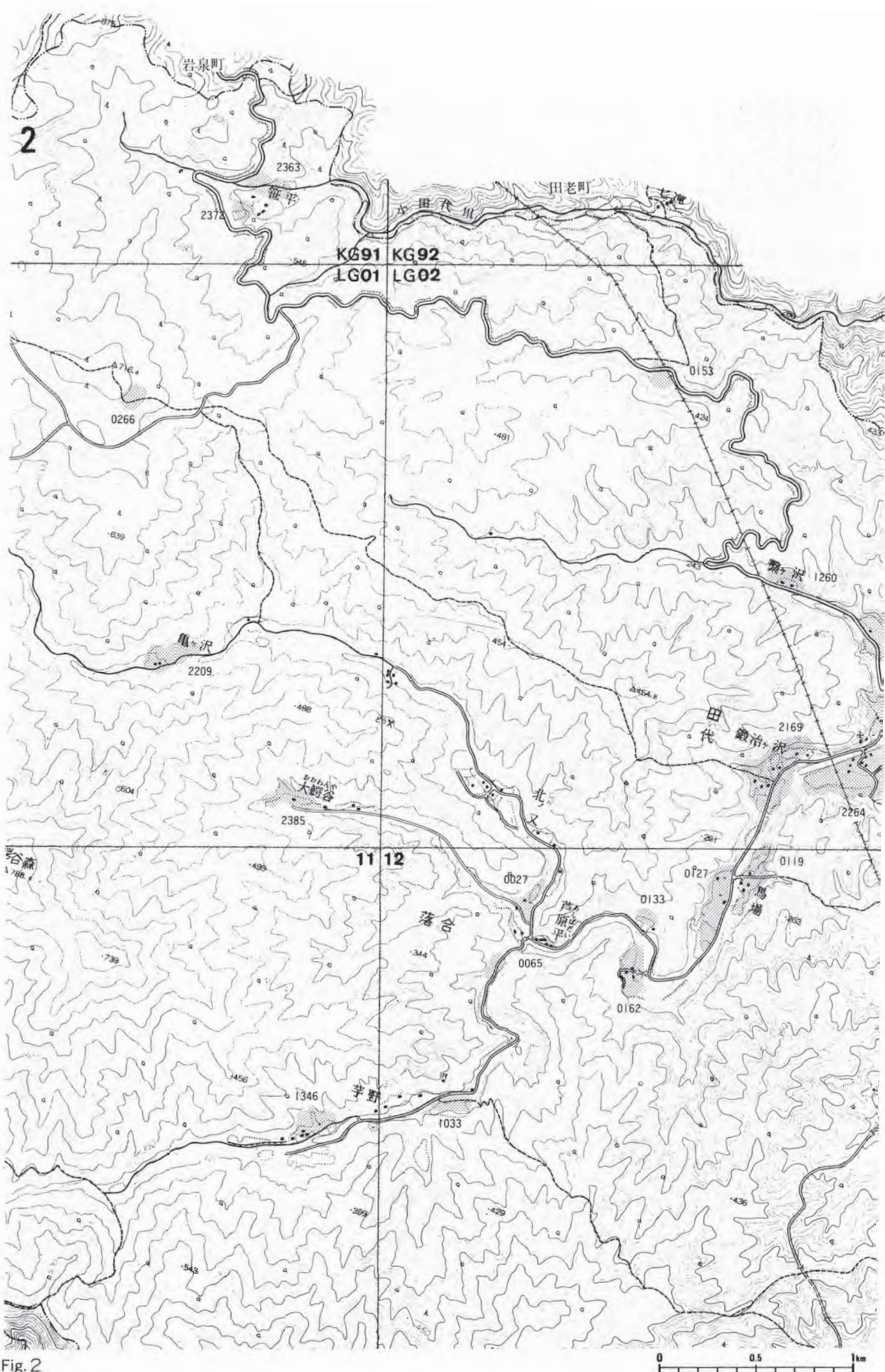


Fig. 2

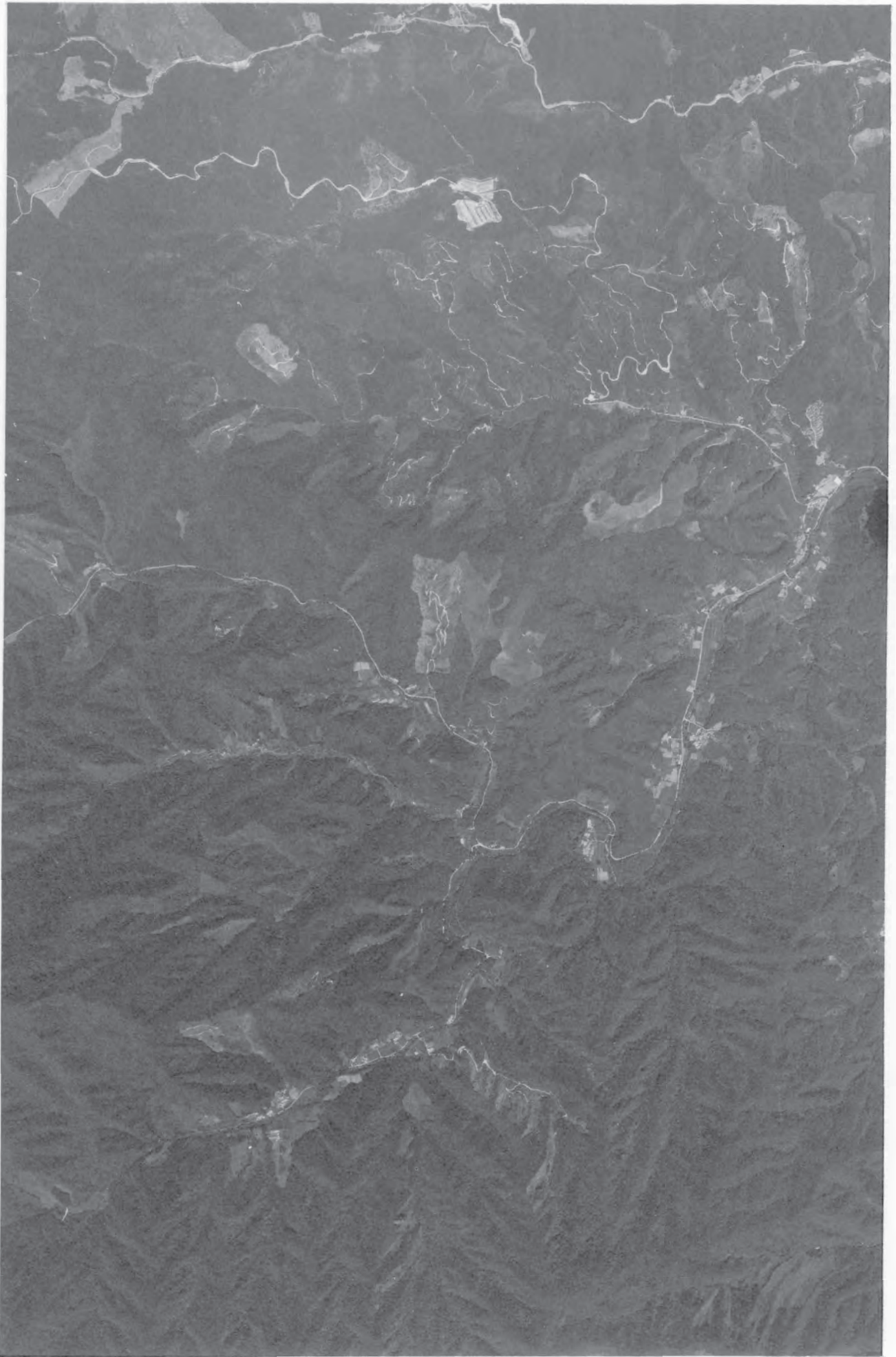


Photo. 2

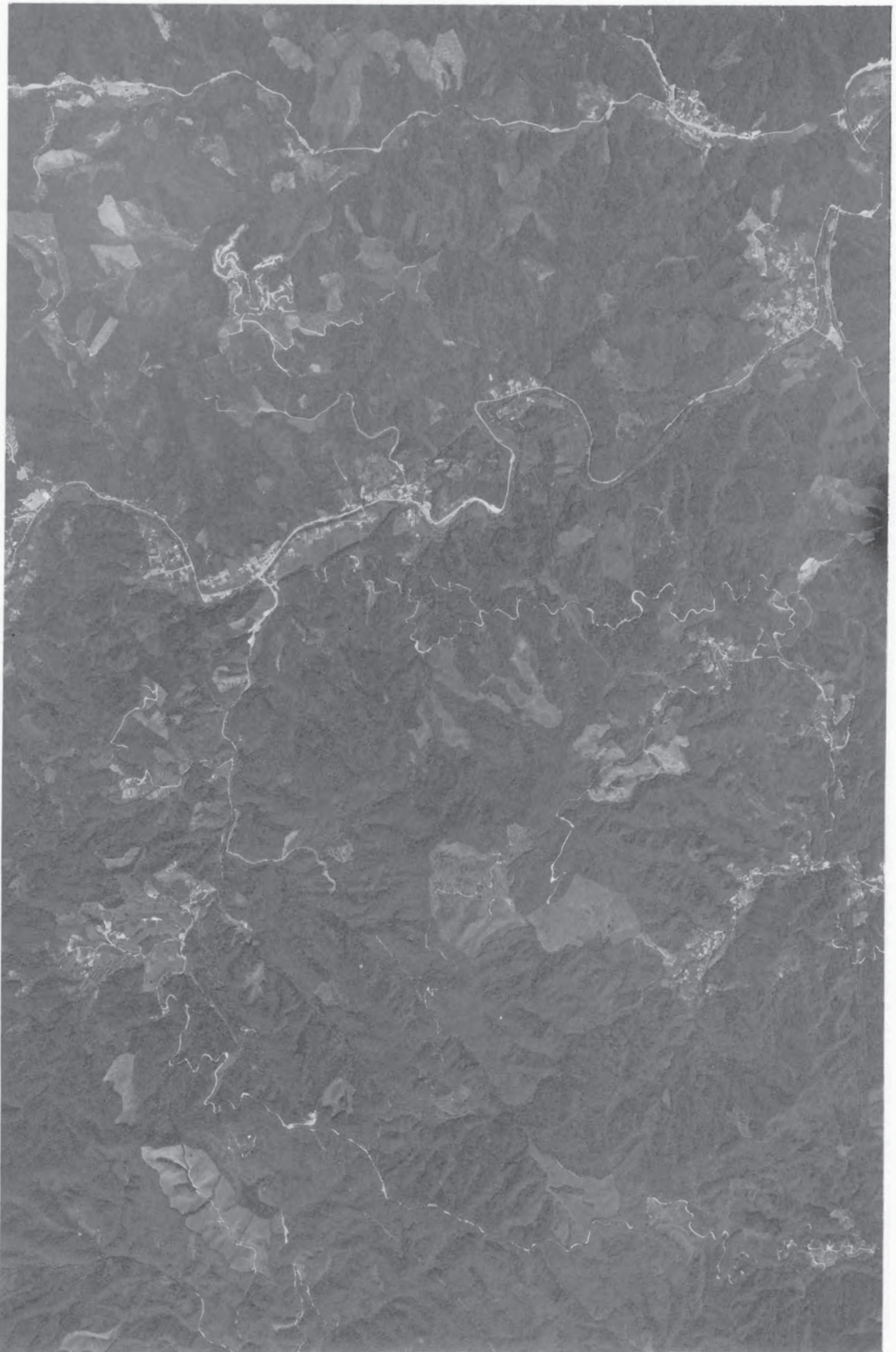


Photo. 3



Photo. 4

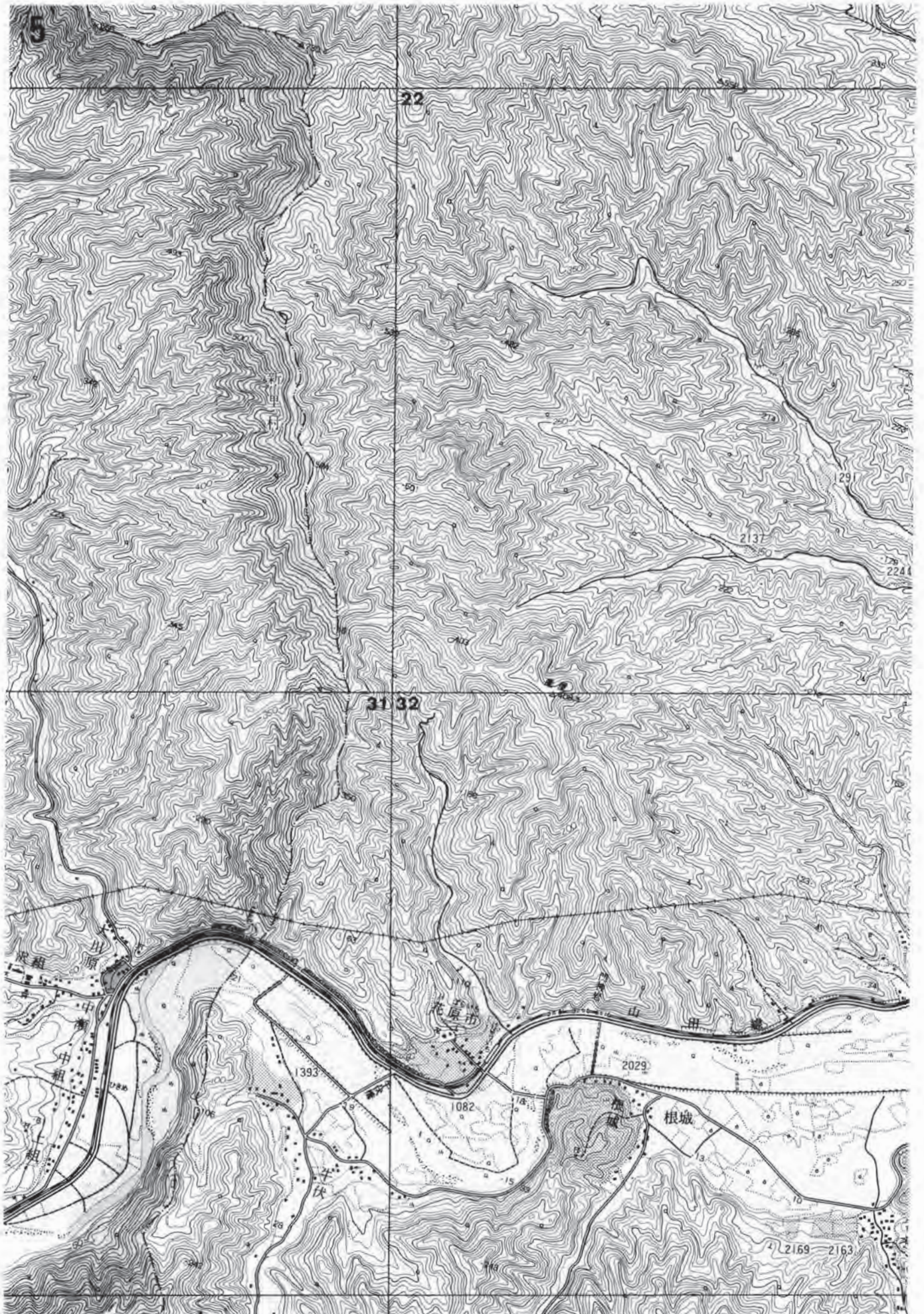
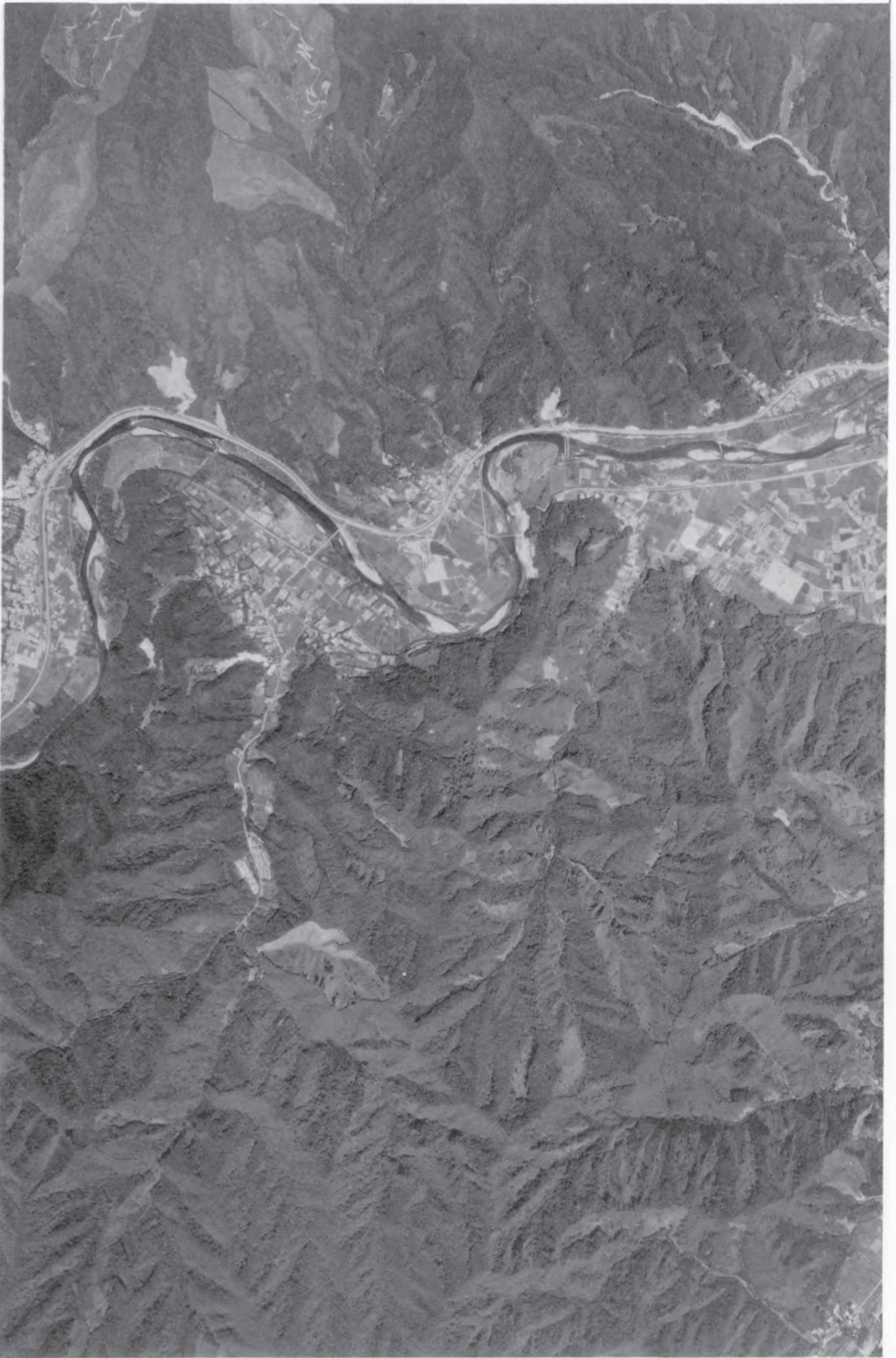


Fig. 5



(北半写真→Photo.16,36P)

Photo. 5

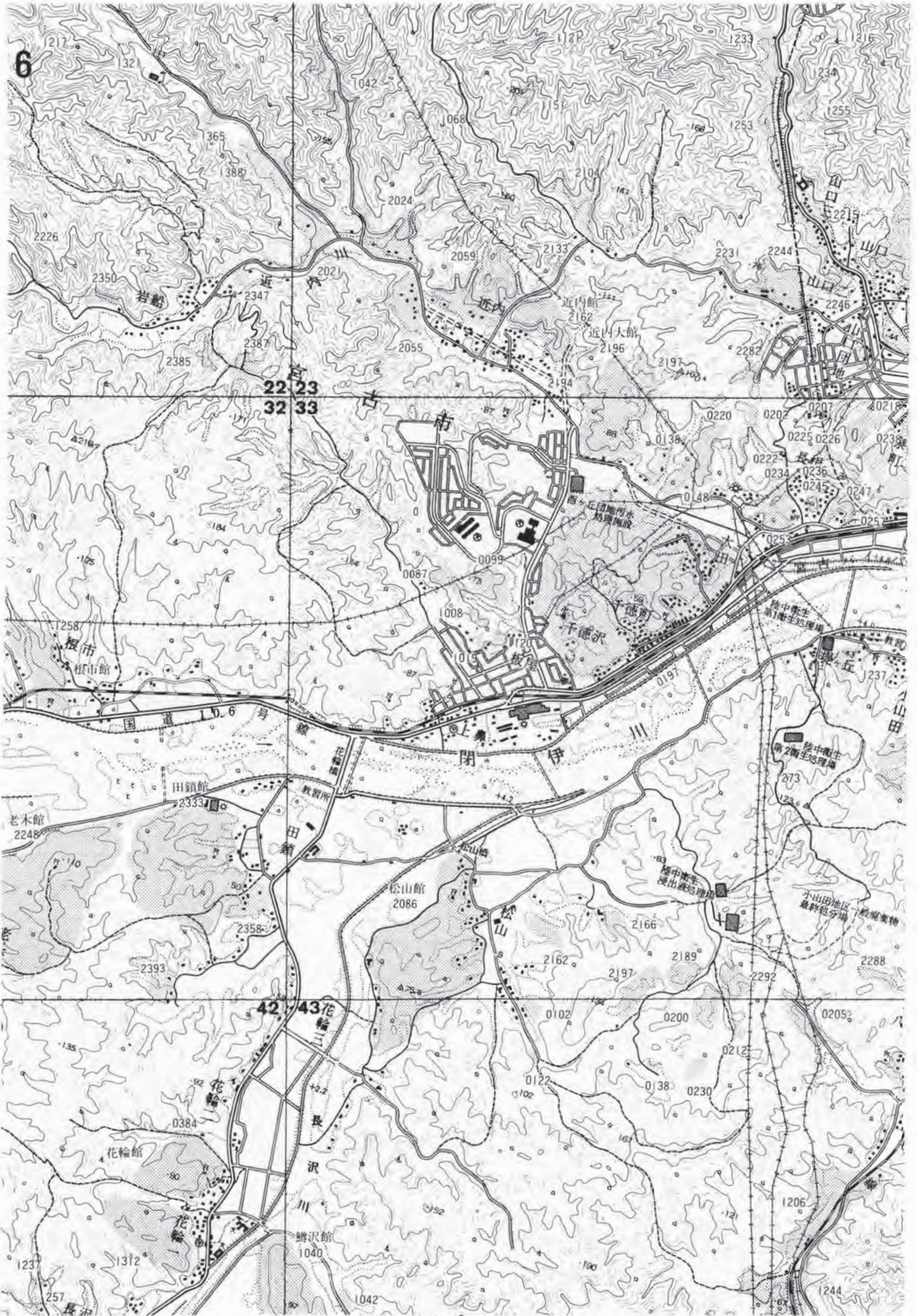
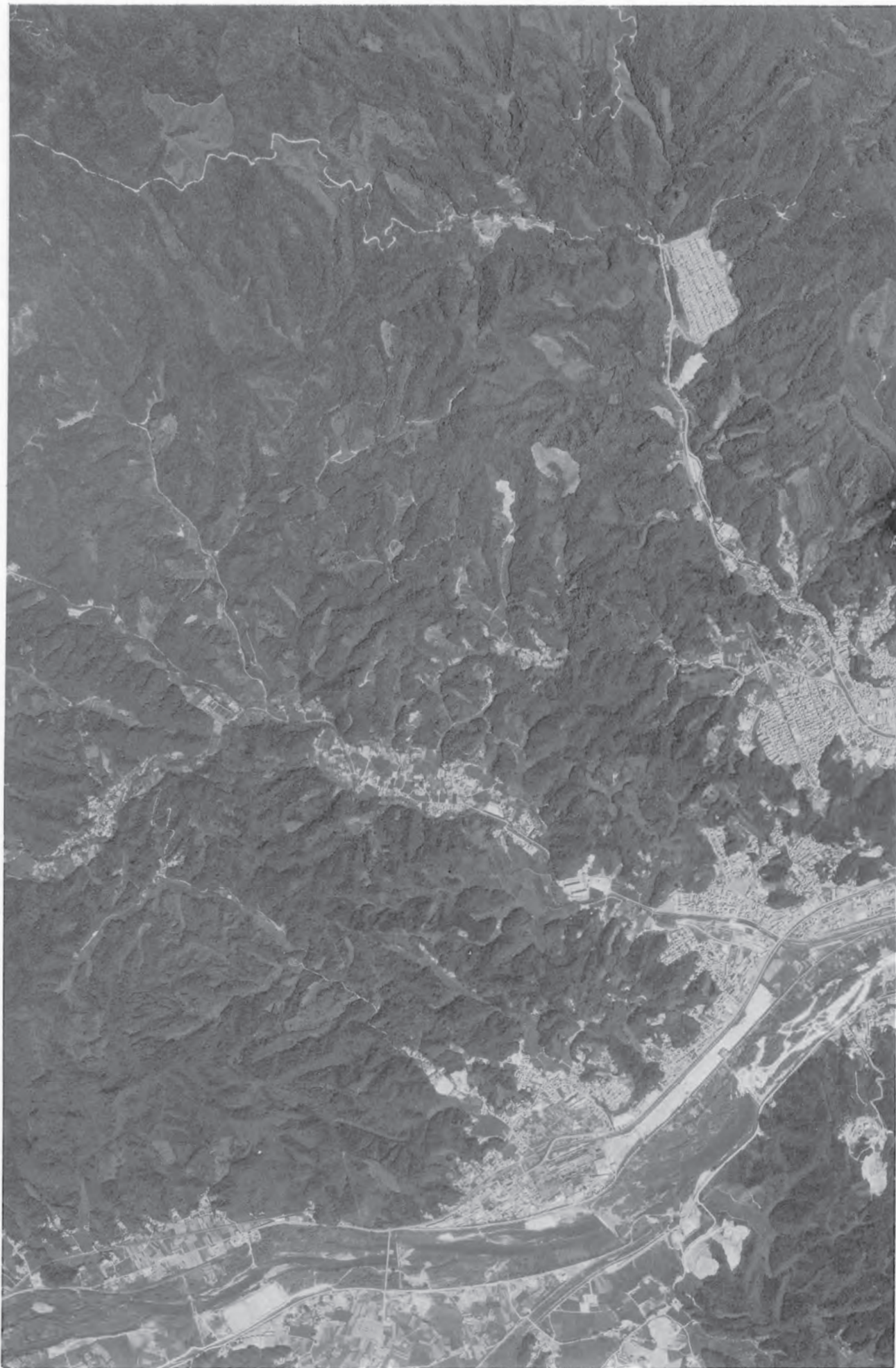


Fig. 6



(南半写真→Photo.17,37P)

Photo. 6



Fig. 7



(南半写真→Photo.18.38P)

Photo. 7



Fig.8

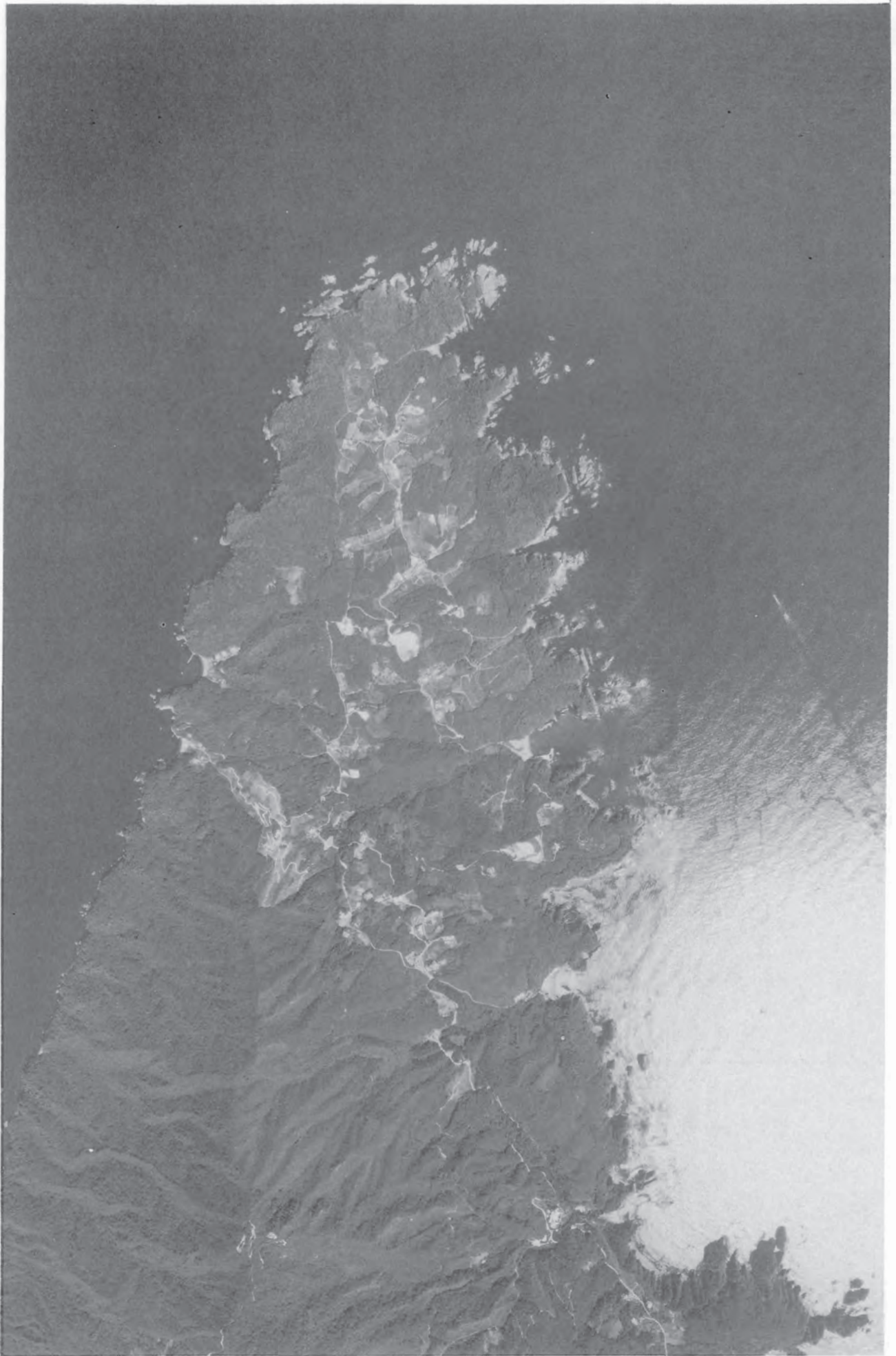


Photo. 8

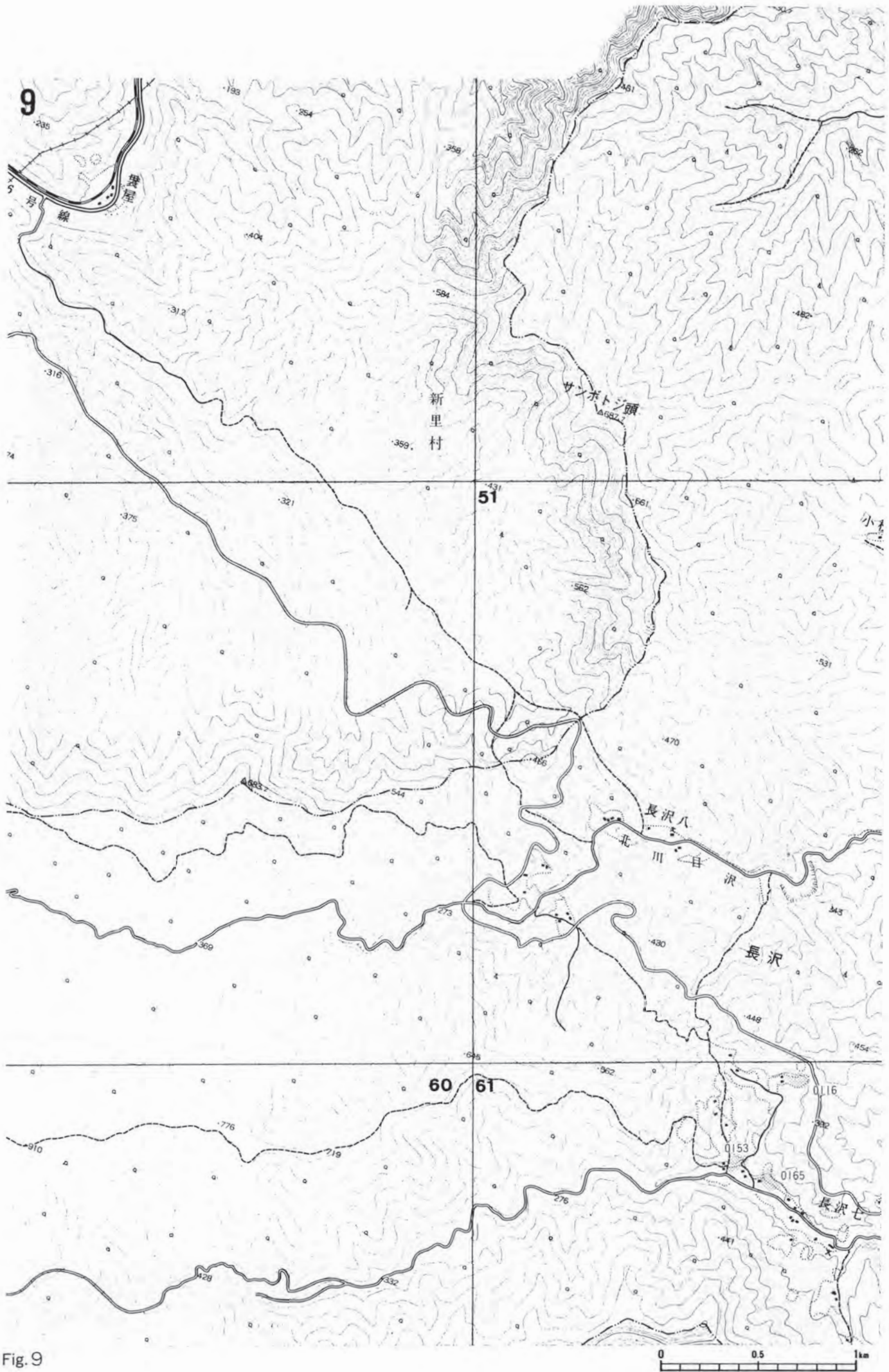


Fig. 9



Photo. 9

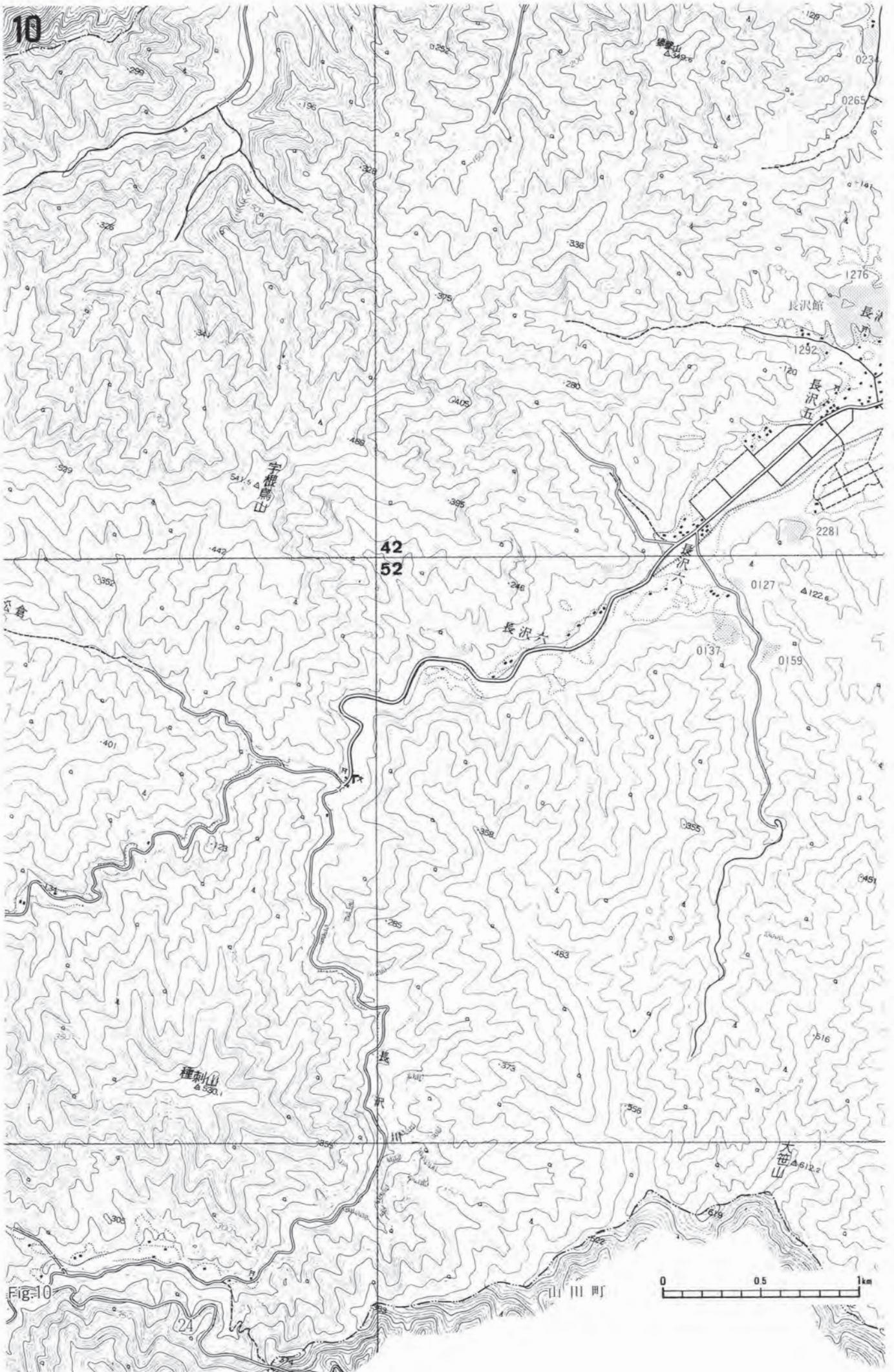


Fig-10

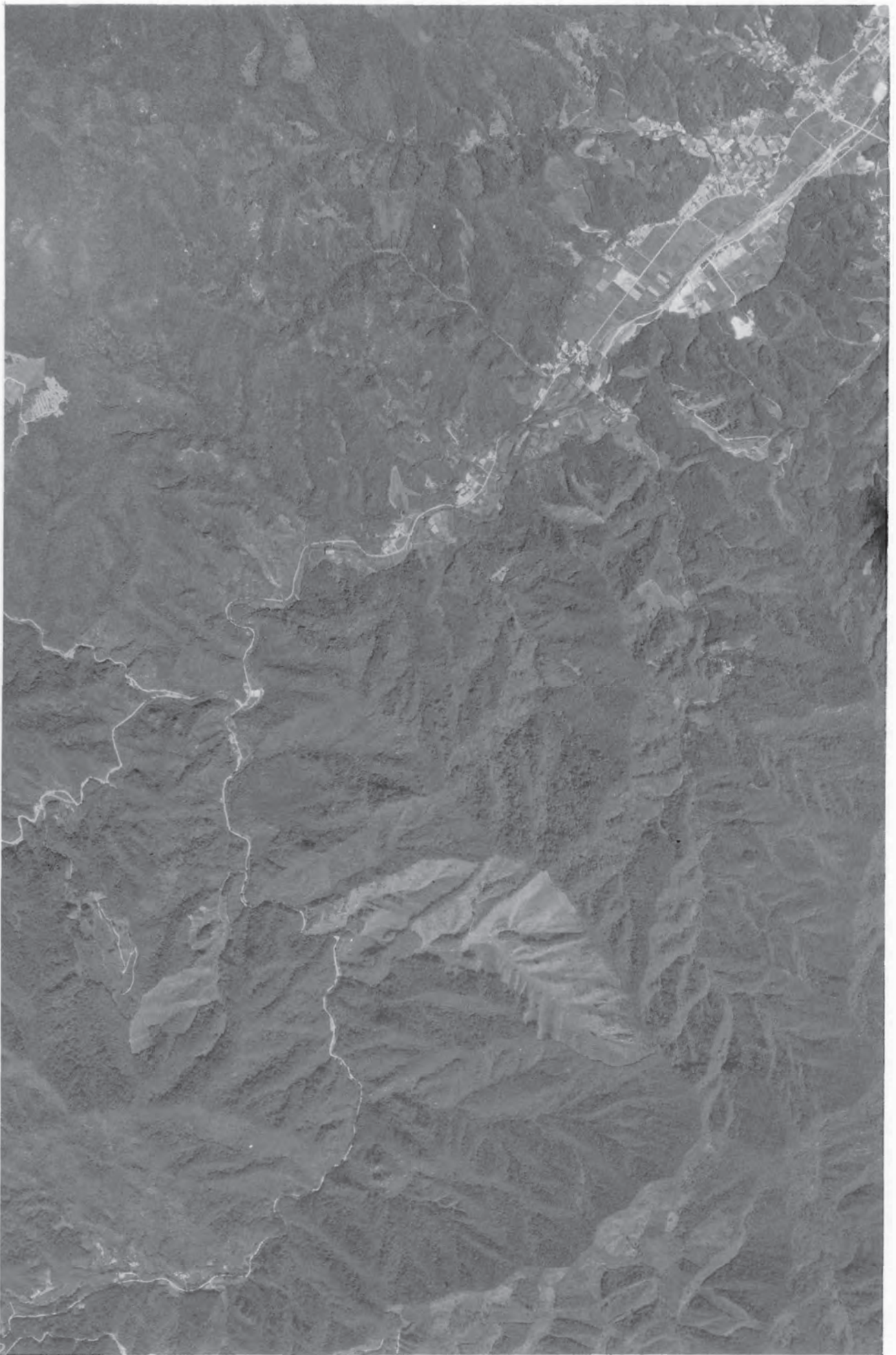


Photo.10

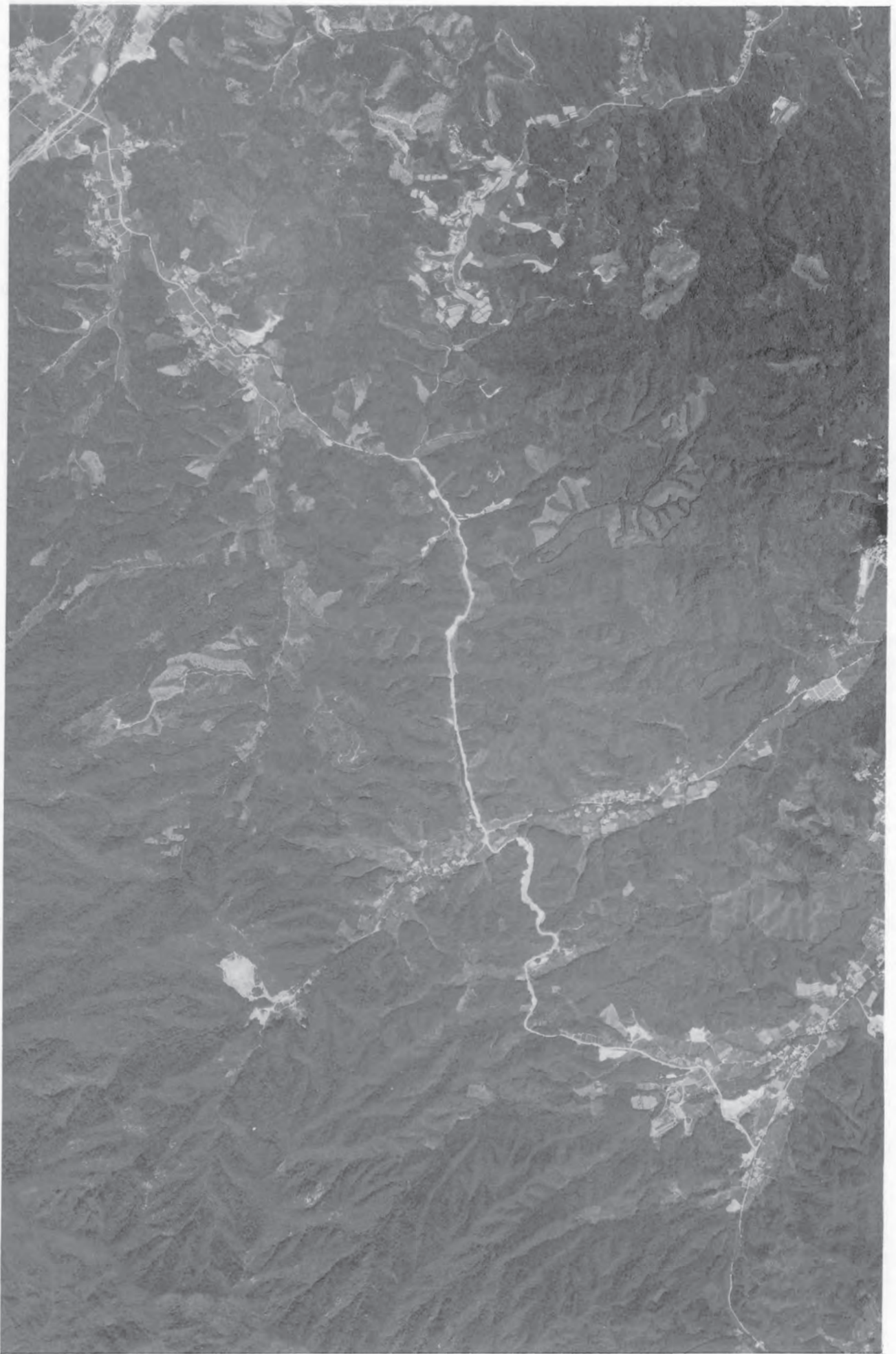


Photo.11

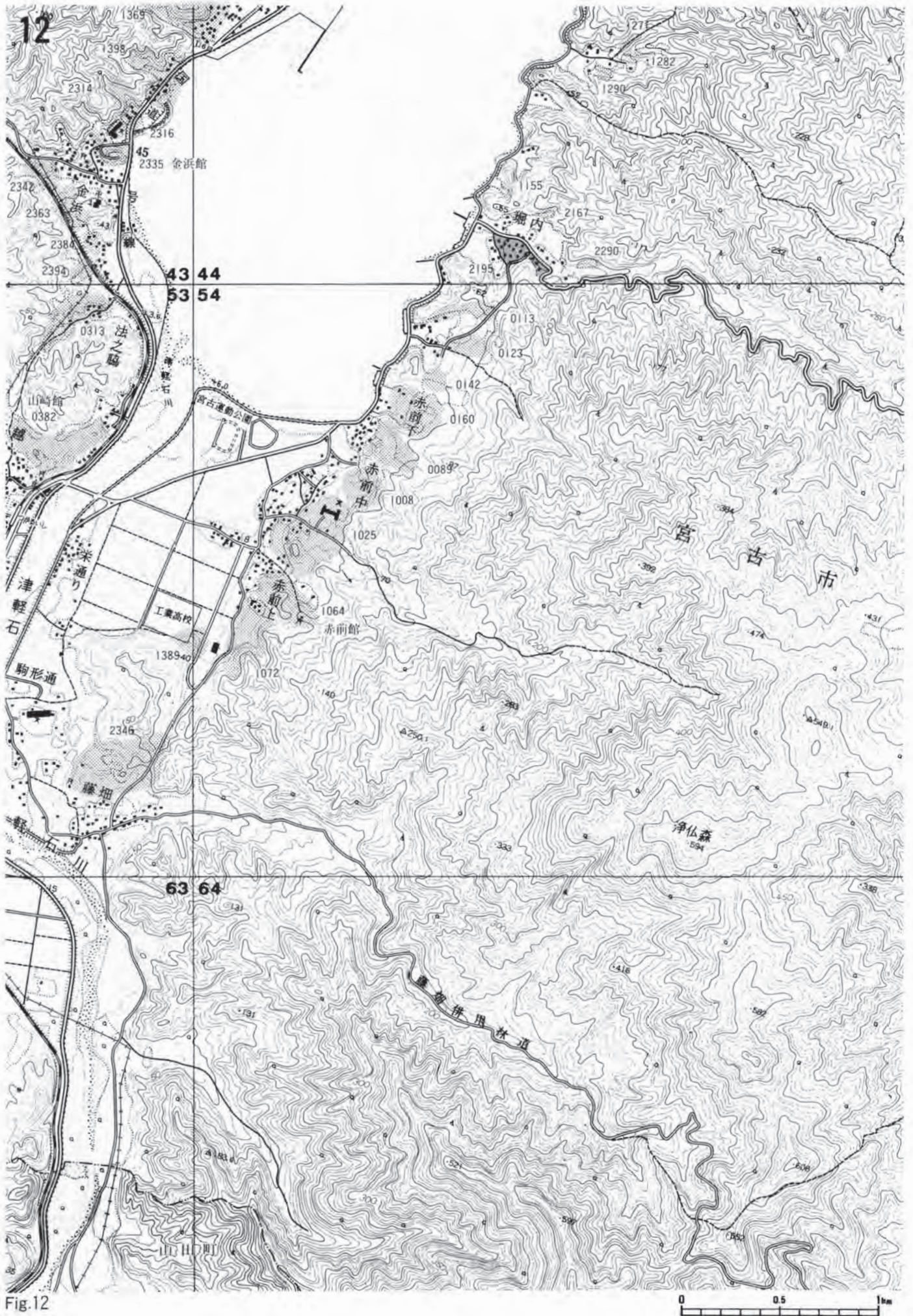


Fig.12

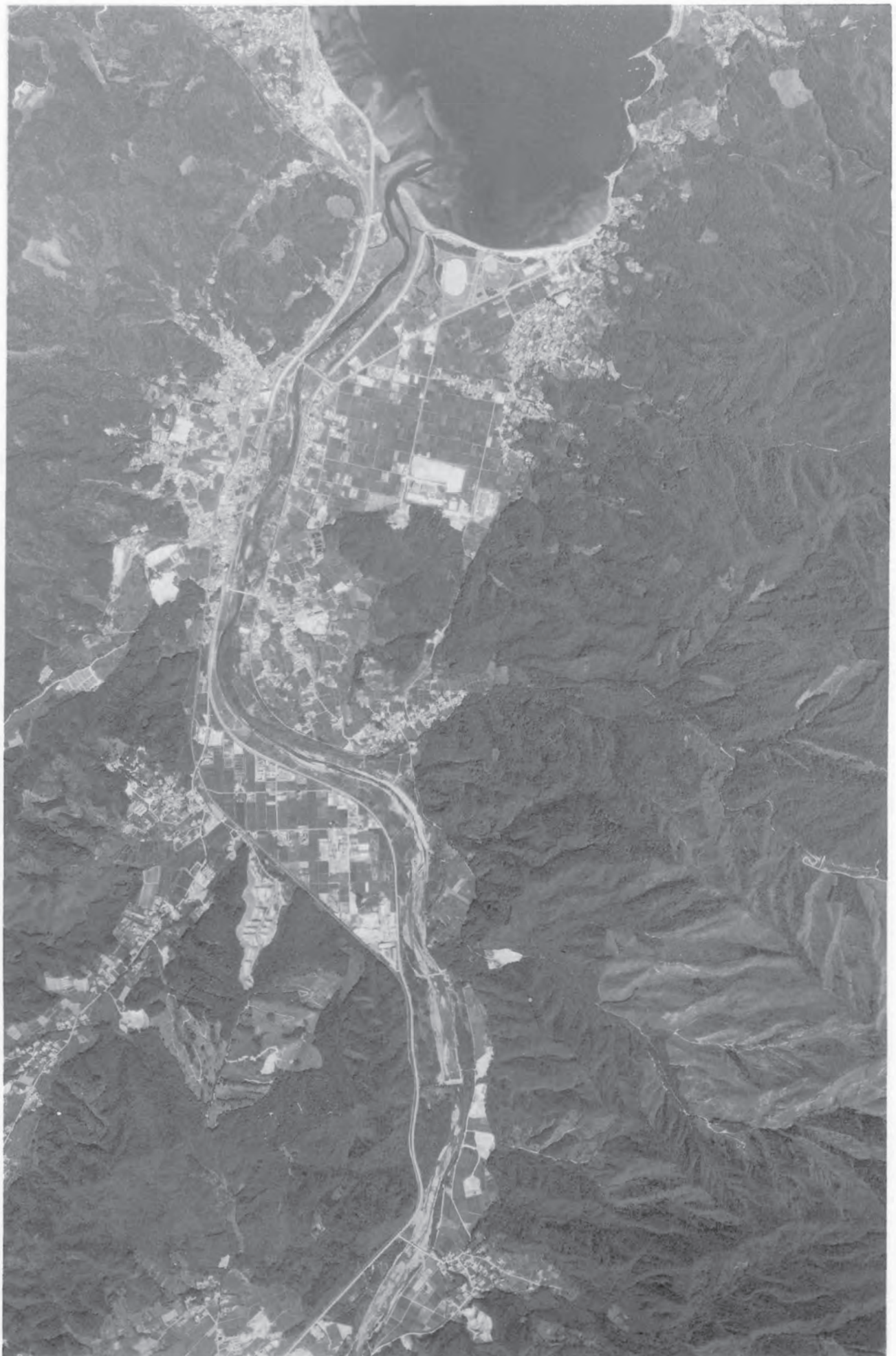


Photo.12

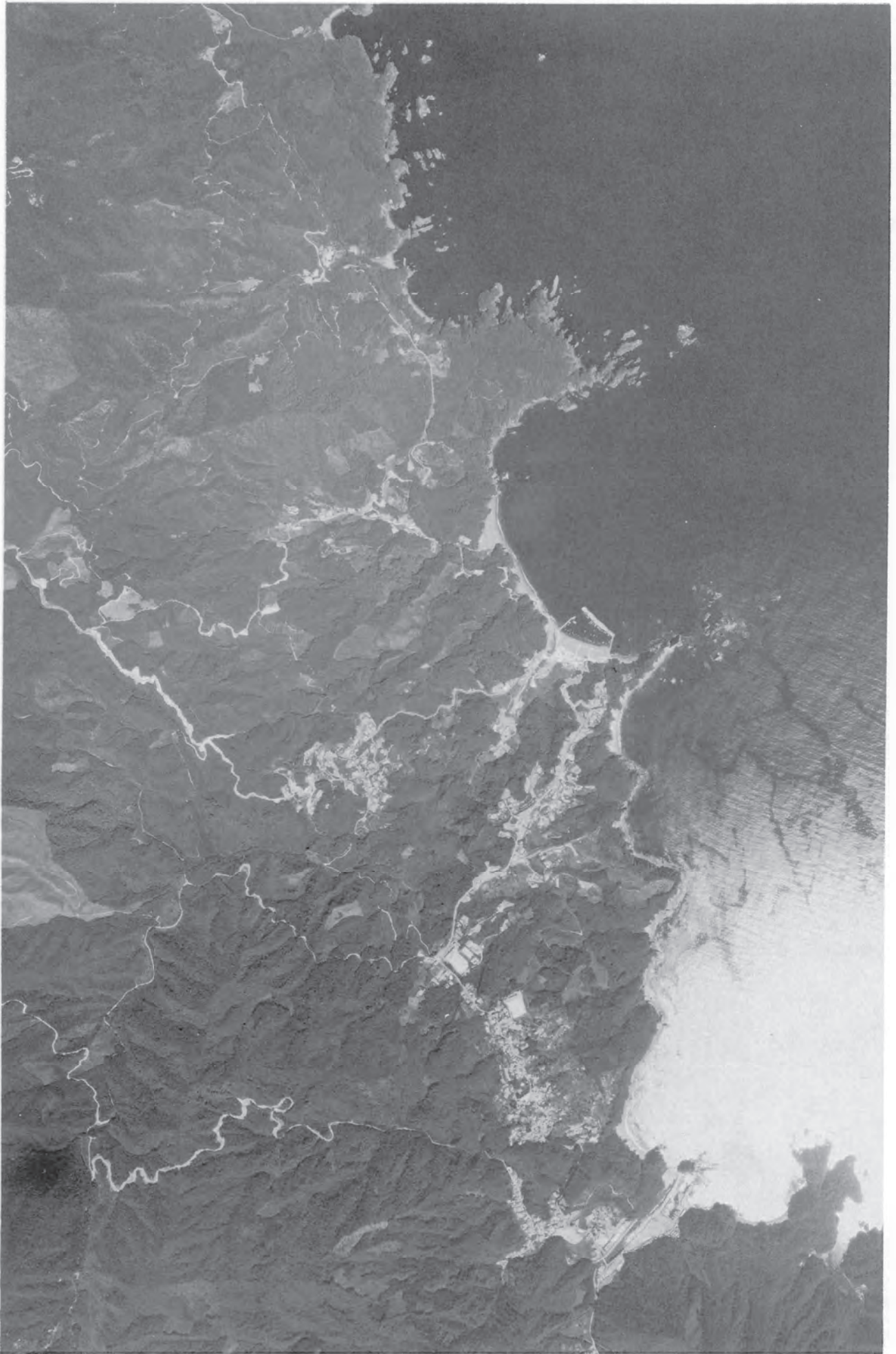


Photo.13

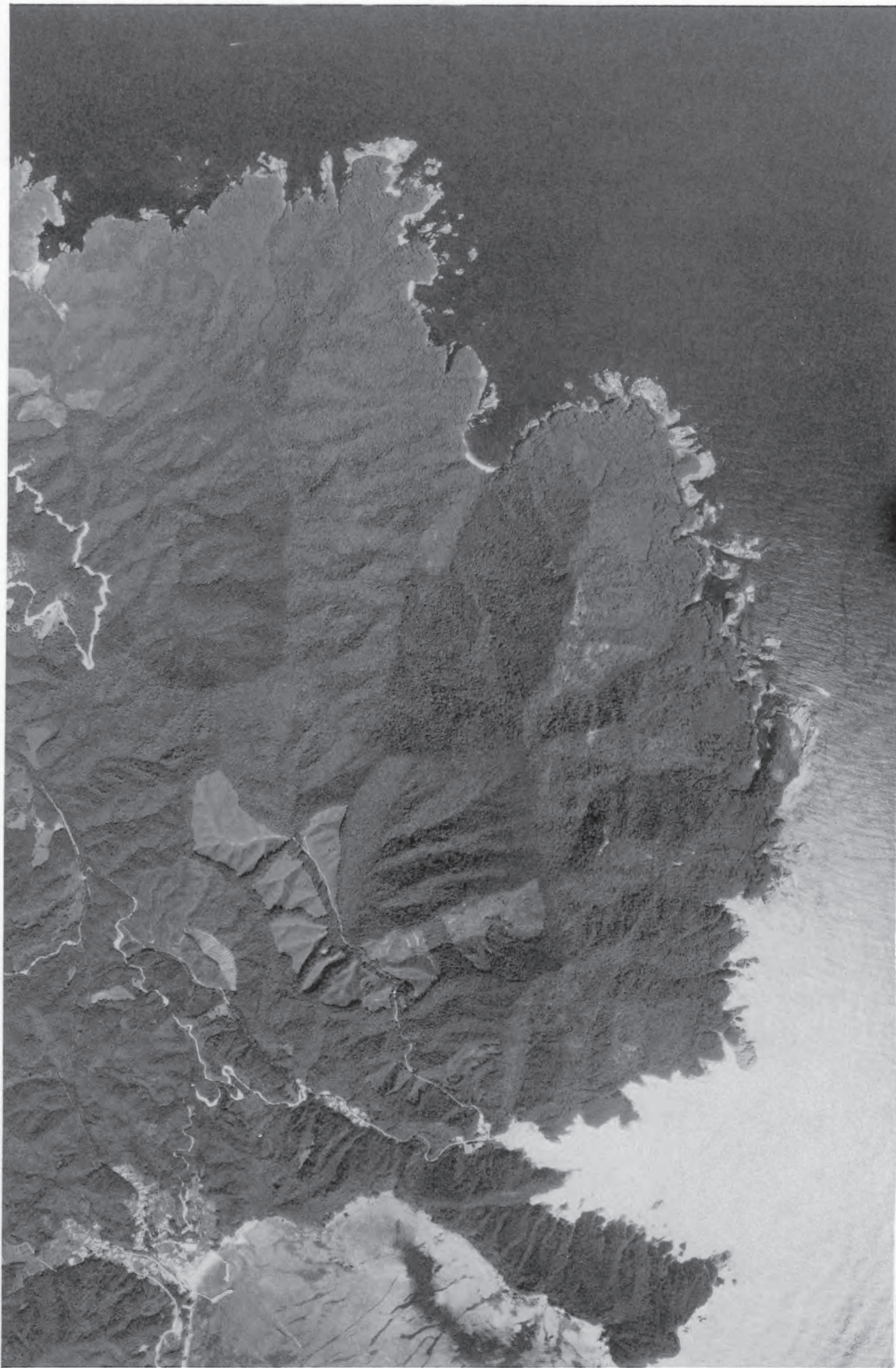


Photo.14

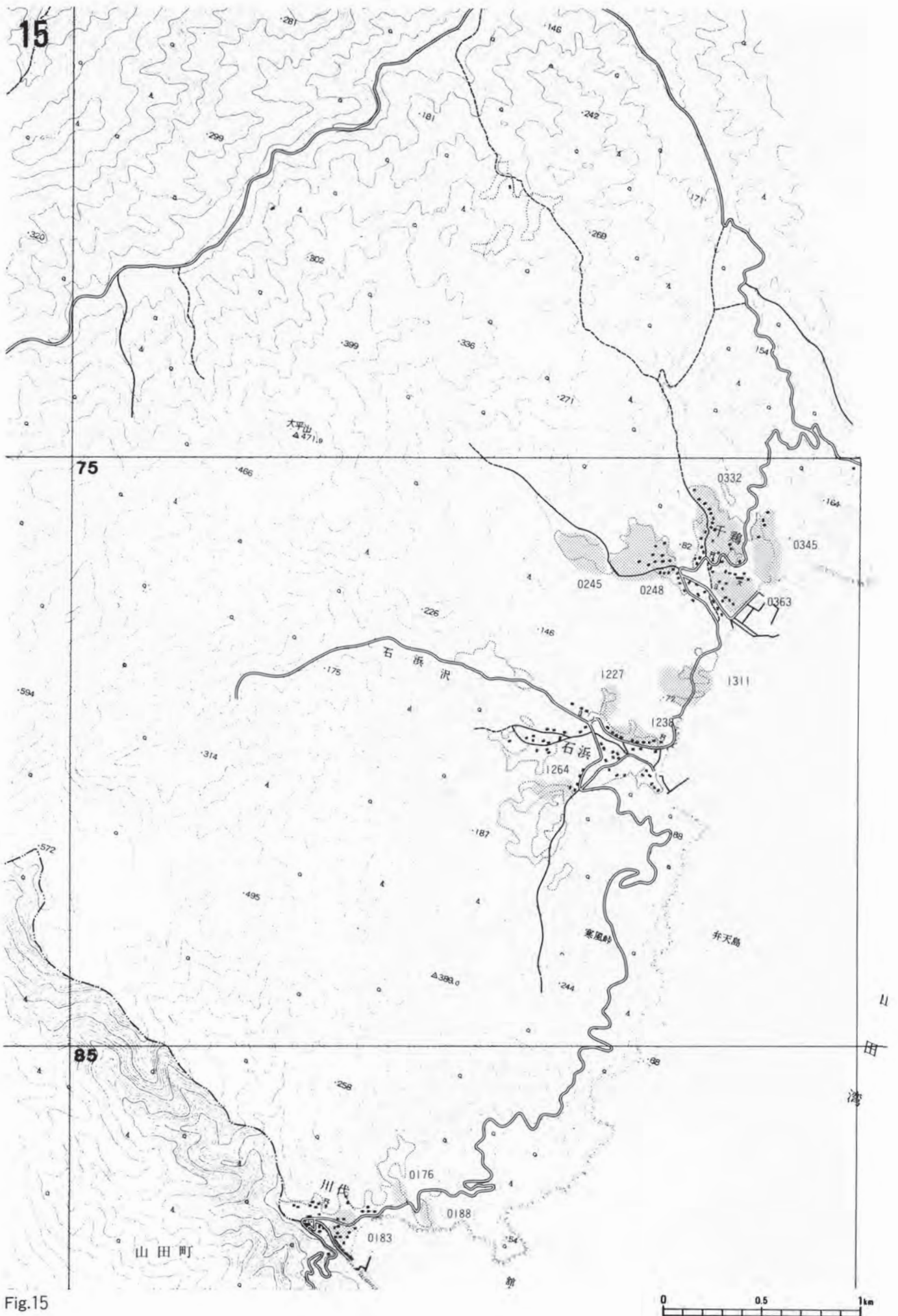


Fig.15

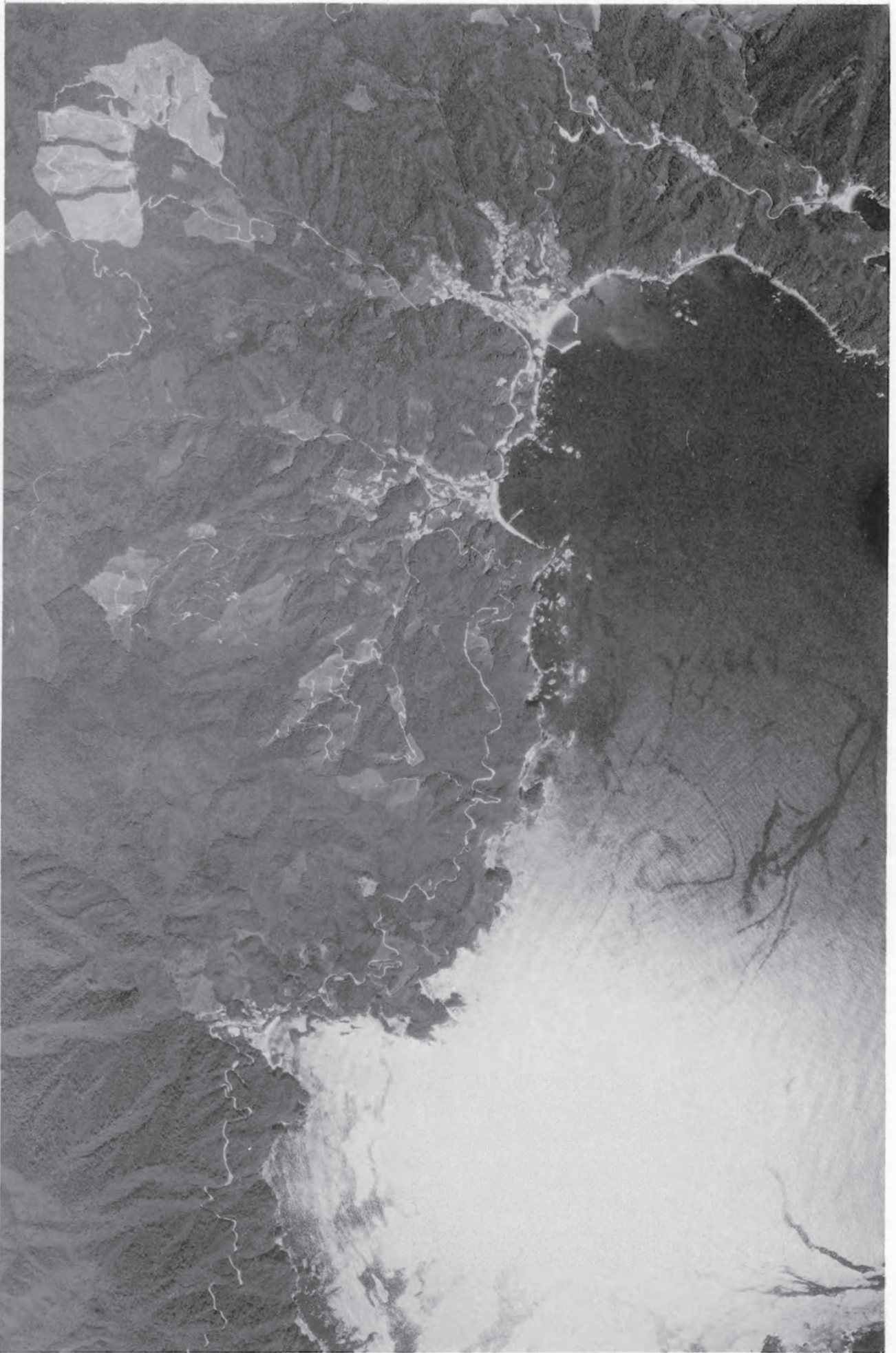


Photo.15

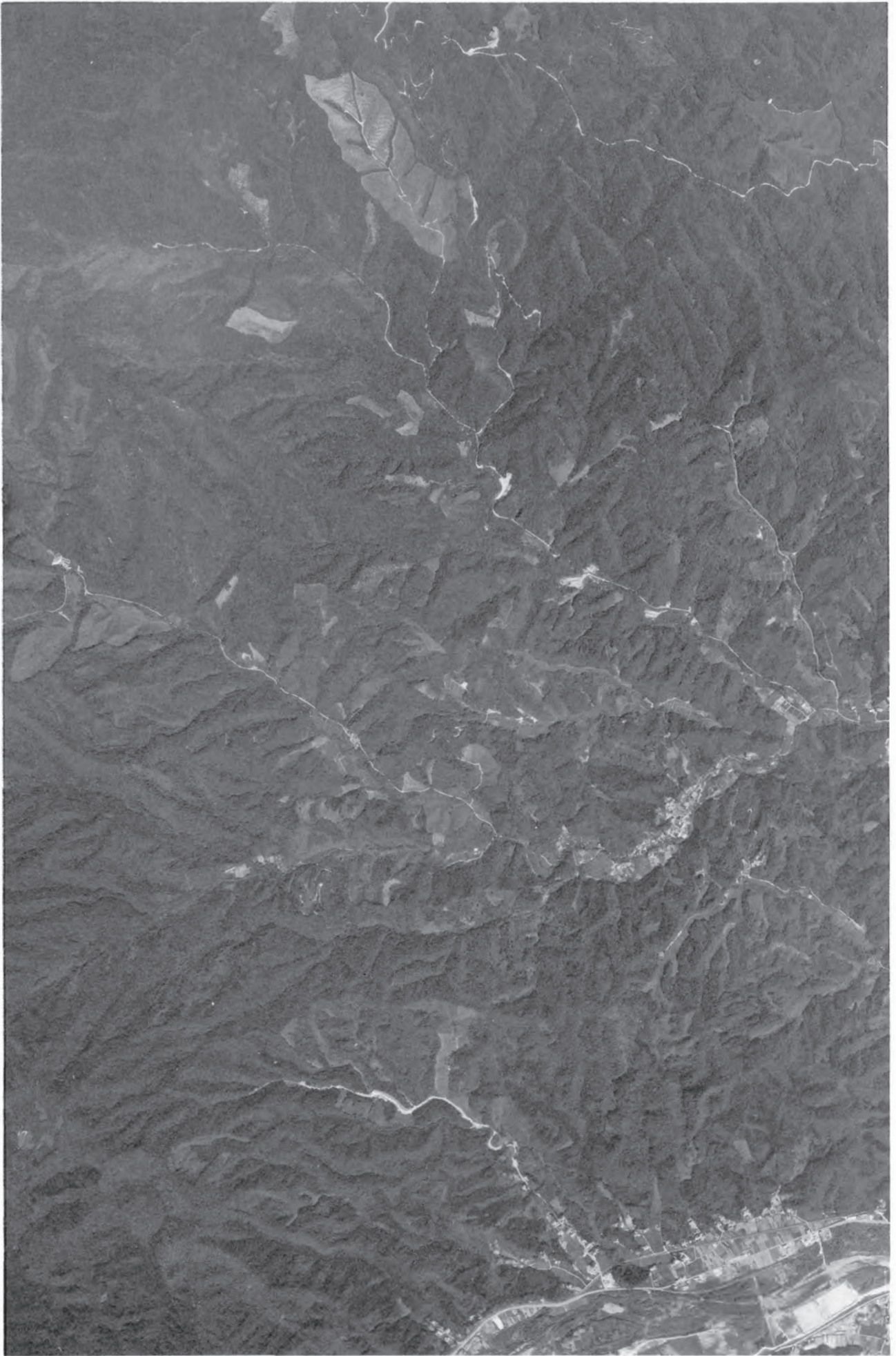
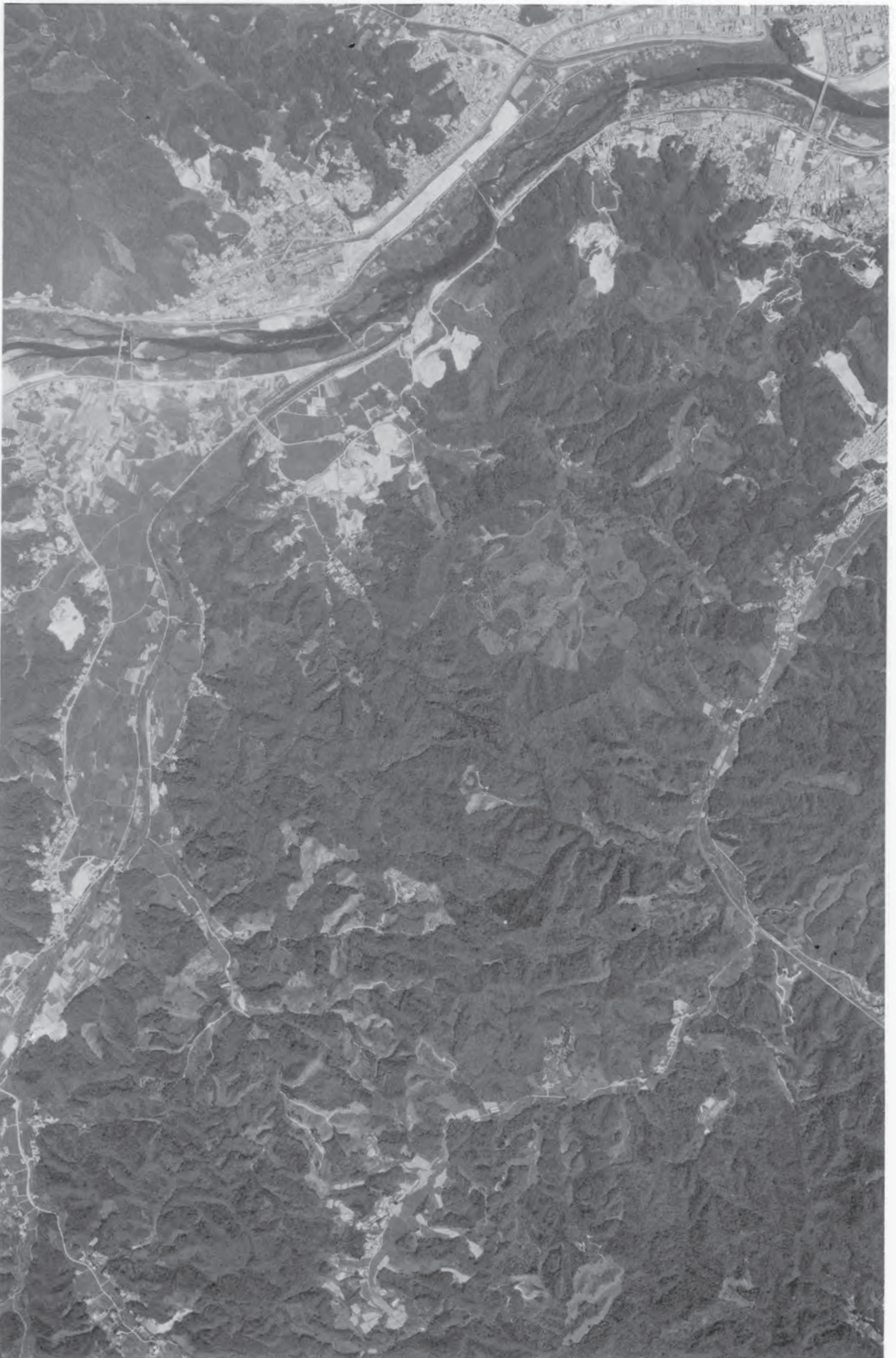


Photo.16

(Photo. 5、15 Pの北半写真)



(Photo. 6、17Pの南半写真)

Photo.17



Photo.18

(Photo. 7、19Pの南半写真)

埋蔵文化財包蔵地一覽

2 KG91, LG01, 02, 11, 12

遺跡コード	遺跡名称	遺物・遺構	所在地	市遺跡番号	県コード	備考
KG91-2363	笹平Ⅰ	縄文時代早期・前期・中期土器	田代第12地割 笹平	105	KG91-2363	
2372	笹平Ⅱ	縄文時代前期・中期土器	田代第12地割 笹平	106	-2382	
LG01-0266	亀ヶ森	縄文時代早期貝殻緑刺突文土器	田代第12地割新田		LG01-0276	註1
-2209	亀ヶ沢	縄文時代中期土器	田代第12地割 亀ヶ沢	107	-2209	
-2385	大鰐谷	縄文時代前期・後期土器・土師器	田代第12地割 大鰐谷	108	-2384	
LG02-1260	繫ヶ沢Ⅰ	縄文時代早期・前期・織維土器	田代第14地割繫澤		LG02-1250	註2
-0153	繫ヶ沢Ⅱ		田代第14地割繫澤			
-2169	鍛冶ヶ沢	縄文時代前期・中期土器	田代15地割大渡	100	LG02-2250	
-2264	君田Ⅲ	縄文時代前期・中期土器	田代第7地割中渡、第8地割君田角地	099	-2264	
LG11-1346	芋野Ⅱ	縄文時代前期・後期土器	田代第10地割芋野	104	LG11-1347	
LG12-1033	芋野Ⅰ	縄文時代中期土器	田代第9地割芦原平	103	LG12-1033	
-0065	芋野Ⅲ		田代第10地割芋野			
-0027	落合	縄文時代前期・中期土器	田代第11地割北ノ又	102	-0028	
-0133	芦原平Ⅱ		田代第13地割坂田、滝ノ上			
-0162	芦原平Ⅰ	縄文時代中期土器・磨製石斧	田代第9地割芦原平		-0162	
-0127	馬場Ⅱ	縄文時代土器	田代第15地割大渡			
-0119	馬場Ⅰ		田代第8地割君田角地			

註1 1983年5月岩手県教育委員会文化課による下閉伊北部区域広域農業開発事業関連の分布調査で発見された。

註2 1983年9月下閉伊北部区域広域農業開発事業亀ヶ森2号幹線工事に伴い、道路拡幅部分について緊急調査が行われた。

「田代繫ヶ沢遺跡発掘調査概報」1984年3月 宮古市教育委員会

3 LG02, 03

遺跡コード	遺跡名称	遺物・遺構	所在地	市遺跡番号	県コード	備考
LG02-2235	君田Ⅰ	縄文時代前期織維土器・中期土器	田代第15地割大渡	008	LG02-2224	
-1295	君田Ⅱ	縄文時代後期土器	田代第16地割中里	098	-1294	註3
-2219	君田Ⅳ		田代第7地割中渡			
-2352	中里沖	縄文時代前期・中期・後期土器	田代第7地割中渡	092	-2353	
-2366	中里	縄文時代中期・後期土器	田代第16地割中里	091	-2365	
-2396	君田Ⅲ		田代第6地割丹戸ノ沢			
LG03-2034	吾妻Ⅰ	縄文時代後期・晩期土器	田代第17地割吾妻	009	LG03-2024	
-2032	吾妻Ⅱ	縄文時代中期土器・石斧・石鏃	田代第17地割吾妻	090	-2031	
-2074	田端		田代第4地割田端、大渡			
-2099	半沢		田代第3地割半沢			
-2038	田代館	城館遺跡 主郭・副郭・帯郭・空堀	田代第18地割館、岩石	245	-2038	
-2019	細越Ⅱ	縄文時代後期・晩期土器	田代第18地割館、岩石	089	-2018	
-2102	細越Ⅰ	平安時代土師器	田代第3地割半沢	088	-2101	
-1275	佐羽根	縄文時代中期・晩期土器	田代第20地割野崎、21地割下平	006	-1275	
-2205	向平		田代第2地割向平			

註3 1984年7月下閉伊北部区域農用地開発事業亀ヶ森2号幹線工事に伴い、道路拡幅部分の試掘調査が岩手県教育委員会により行われている。

3 LG12, 13, 22, 23

遺跡コード	遺跡名称	遺物・遺構	所在地	市道跡番号	県コード	備考
LG12-0341	梨木平Ⅰ	縄文時代前期・中期土器	田代第6地割丹戸ノ沢	093	LG12-0342	
-0351	梨木平Ⅱ	縄文時代前期・中期土器	田代第6地割丹戸ノ沢、第5地割臼杵	094	-0360	
-0259	梨木平Ⅲ		田代第5地割臼杵	095	-0258	
-1321	臼杵Ⅰ	縄文時代早期土器・石器	田代第5地割臼杵	060	-1330	註4
-1209	臼杵Ⅱ	縄文時代前期・中期土器	田代第5地割臼杵	096	-1209	
-1236	臼杵Ⅲ	縄文時代前期・中期土器	田代第5地割臼杵	097	-1236	註5
-1207	臼杵Ⅳ		田代第5地割臼杵			
-1322	臼杵Ⅴ		田代第4地割田端			
-1333	臼杵Ⅵ		田代第4地割田端			
-2367	雄文峠	縄文時代前期・中期土器	近内第7地割菅ノ沢	135	-2386	
LG13-0147	八川Ⅰ	製鉄遺跡	崎山第8地割石釜	109	LG13-0158	
-0167	八川Ⅱ		崎山第8地割石釜			
-0232	八川Ⅲ		崎山第5地割内ノ沢			
-0155	八川天馬平	縄文時代前期・中期・後期土器	崎山第8地割石釜	110	-0154	
-0282	小峠	縄文時代前期・中期土器	崎山第8地割石釜	111	-0290	
-1273	明塚Ⅰ	縄文時代早期末・前期・中期土器	崎山第7地割雲南	112	-2103	
-1292	明塚Ⅱ		崎山第7地割雲南			
-1157	箱石Ⅰ	縄文時代前期・中期土器	崎山第8地割石釜	113	-1273	
-1175	箱石Ⅱ		崎山第8地割石釜			
-1193	箱石Ⅲ	縄文時代早期・前期・中期土器	崎山第7地割雲南	114	-1167	
LG22-0360	ヒビチカ		近内第8地割標館			
LG23-0078	黒石沢	縄文時代前・中・後期土器・須恵器	近内第5地割蜂ヶ沢	239	LG23-0088	
-0136	馬子舞Ⅰ	縄文時代中期土器・山茶碗	山口第15地割馬子舞	011	-0147	註6
-0128	馬子舞Ⅱ		山口第15地割馬子舞			

註4, 5 1984年7月下旬伊北部区域農用地開発事業亀ヶ森1号幹線工事に伴い、道路拡幅部分の試掘調査が岩手県教育委員会により行われている。
 註6 田村忠博氏により山茶碗が採集されており、同氏著書『富古地方の中世史・古城物語』（1983年刊）には次のように紹介されている。
 「馬子舞出土の山茶碗は、糸切底に、粘土紐を輪にして貼付けただけの粗末な高台がつけられているか、この高台に、何十もの椀殻の圧痕が残っている……」

4 LG04, 14

遺跡コード	遺跡名称	遺物・遺構	所在地	市道跡番号	県コード	備考
LG04-2058	松月	縄文時代土器	崎山第4地割日蔭 松月	072	LG04-2058	
LG14-0020	女遊戸赤畑Ⅰ	縄文時代前期・中期土器	崎山第5地割内ノ沢	115	LG14-0022	
-0023	女遊戸赤畑Ⅱ	縄文時代土器	崎山第5地割内ノ沢			
-0131	女遊戸遺跡群	縄文時代前期・中期土器	崎山第4地割日蔭 女遊戸		-0040	
-1247	鍾ヶ崎	縄文時代土器	崎山第3地割トロノ木	Sa-20		
-1288	大崎山	縄文時代後期土器	崎嶽ヶ崎第18地割大崎山	237・Sa-19	-1299	
-1282	古里Ⅴ	縄文時代中期土器	崎嶽ヶ崎第18地割大崎山	116・Sa-18	-1292	
-2206	古里Ⅳ	縄文時代後期土器	崎嶽ヶ崎第17地割古里	Sa-17		
-2203	古里Ⅲ	縄文時代土器	崎嶽ヶ崎第17地割古里	Sa-16		
-1198	古里Ⅱ	縄文時代土器	崎山第3地割トロノ木	Sa-15		
-2119	古里Ⅰ	縄文時代前期・中期土器	崎嶽ヶ崎第16地割塩吹	Sa-14		

4 LG14, 23, 24

遺跡コード	遺跡名称	遺物・遺構	所在地	市遺跡番号	県コード	備考
LG14-2232	潮吹II	縄文時代前期・中期・後期土器	崎嶽ヶ崎第17地割古里	Sa-13		
-2253	潮吹I	縄文時代前期土器	崎嶽ヶ崎第17地割古里・第16地割塩吹	117・Sa-12	LG04-2254	
-2262	わたのは	縄文時代前期・後期土器・石剣	崎嶽ヶ崎第16地割塩吹	046・Sa-11	-2252	註7
-2230	潮吹III	縄文時代中期土器	崎嶽ヶ崎第16地割塩吹	118・Sa-10	-2149	
-2137	萩沢I	縄文時代土器	崎嶽ヶ崎第14地割萩沢	Sa-09		
-2157	萩沢II	縄文時代中期土器	崎嶽ヶ崎第14地割萩沢	Sa-08		
-2294	百出島	縄文時代中期土器	崎嶽ヶ崎第15地割大附	Sa-07		
-2291	大付	縄文時代前期・後期土器・晩期墓塚	崎嶽ヶ崎第15地割大附	055・Sa-06	-2291	註8
-2195	白石	縄文時代前期・中期土器	崎嶽ヶ崎第13地割白石	056・Sa-05	-2194	
-2099	トロノ木V	縄文時代早期・前期土器	崎山第3地割トロノ木	Sa-27		
-2121	トロノ木IV	縄文時代中期土器・竪穴住居跡	崎山第3地割トロノ木	Sa-26		註9
-2123	トロノ木III	縄文時代前期・中期土器	崎山第3地割トロノ木	119・Sa-25	-2123	
-2150	トロノ木II	縄文時代中期土器	崎山第3地割トロノ木	Sa-23		
-2048	トロノ木I	縄文時代中期竪穴住居・近世建物	崎山第3地割トロノ木	120・Sa-24	-2058	註10
-2127	千束長根	縄文時代土器	崎山第1地割千束長根	Sa-22		
-2079	崎山貝塚	縄文時代早・前・中期・貝層	崎山第1地割千束長根・第2地割道ノ下	053・Sa-21	-2180	註11
LG23-1364	黒森マギ沢	縄文時代早期土器	山口第4地割田の神前	049	LG23-1374	
-1332	黒森山	古黒森神社等	山口第4地割田の神前			
-1326	黒森		山口第4地割田の神前		-1327	
-1349	寒風	縄文時代プラスチック状ピット	崎嶽ヶ崎第1地割寒風			註12
-1309	南沢I		崎嶽ヶ崎第5地割南沢			
-0369	早稲橋田	縄文時代中期・後期土器	崎嶽ヶ崎第5地割南沢	127・Wa-03	-0378	
LG24-0020	早稲橋II		崎嶽ヶ崎第7地割鬼越	126・Wa-01	LG24-0020	
-0040	早稲橋糠森	縄文時代早期・前期・中期土器	崎嶽ヶ崎第6地割糠森	047・Wa-02	-0040	
-0081	早稲橋IV		崎嶽ヶ崎第8地割大澤	Wa-04		
-1000	早稲橋V		崎嶽ヶ崎第4地割早稲橋			
-1020	早稲橋VI		崎嶽ヶ崎第4地割早稲橋			
-0018	下在家	縄文時代中期土器	崎嶽ヶ崎第11地割下在家	122・Sa-04	-0028	
-0142	塚場	縄文時代後期土器	崎嶽ヶ崎第10地割塚場	123・Sa-03	-0142	
-0177	長磯	縄文時代前期・中期土器	崎嶽ヶ崎第12地割長磯	124・Sa-02	-0177	
-0057	大石	縄文時代土器	崎嶽ヶ崎第9地割大石	Sa-01		
-1069	佐原	縄文時代土器	崎嶽ヶ崎第2地割佐原	Sab-04		
-1166	平松I	縄文時代前期・中期土器	嶽ヶ崎第6地割平松	125・Sab-03	-1167	
-1184	平松II	縄文時代前期・中期土器	嶽ヶ崎第6地割平松	Sab-02		
-1187	平松III	縄文時代中期土器	嶽ヶ崎第6地割平松	Sab-01		

註7 中島吉兵衛著『先史遺物帖』(1911年)に、わたのは遺跡出土の石剣の拓影がある。1983「宮古市遺跡分布調査報告書1」23P

註8 1979年1月岩手県立博物館により緊急調査が行われ、大洞B式土器を伴う人骨が検出されている。本書54P, Photo.23

1979「宮古市大付遺跡発掘調査報告書」宮古市教育委員会

註9 1985年10月～11月に緊急調査が行われ、竪穴住居跡4棟、石組炉2基が検出されている。

註10 1981～85年にかけて試掘調査・緊急発掘調査が行われており、1983年の第4次調査では大木8b式期の竪穴住居が検出されている。

また、1984～1985年に行われた第5～7次調査では近世建物跡・井戸跡などが調査されている。

註11 1985年4～5月に貝塚南面の一部で緊急調査が行われ、大木8b式期を主体とする遺物包含層が検出されている。

註12 1985年 建設省東北地方建設局三陸国道工事事務所による国道45線の歩道拡張工事で遺構の一部が消滅した。

5 LG22, 31, 32

遺跡コード	遺跡名称	遺物・遺構	所在地	市遺跡番号	県コード	備考
LG22-1291	大又沢Ⅱ	縄文時代中期土器・土師器	千徳第27地割大又	153	LG22-1281	
-2137	新田沢Ⅱ		千徳第28地割北ヶ平			
-2244	新田沢Ⅰ		千徳第28地割北ヶ平			
LG31-1393	牛伏	土師器	老木第35地割茂屋沢	181	LG31-1384	
LG32-1082	花原市	縄文時代中期・晩期	花原市第2地割草鞍前	014	LG32-1082	
-2029	根城館	城館遺跡	老木第19地割根城館	252	-2029	註13
-2169	老木和野Ⅱ	縄文時代中期土器	老木第8地割和野			
-2263	老木和野Ⅰ	縄文時代中期土器	老木第8地割和野	032	-2272	

註13 宮古市指定史跡

6 LG22, 23

遺跡コード	遺跡名称	遺物・遺構	所在地	市遺跡番号	県コード	備考
LG22-1217	セネガ沢Ⅱ	縄文時代中期土器、弥生時代土器	近内第8地割柵館	151	LG22-1217	
-1321	セネガ沢Ⅰ	縄文時代前・中・後期、磨製石器	近内第8地割柵館	150	-1321	註14
-1365	柵館Ⅲ	縄文前・中期、弥生・土師・須恵器	近内第8地割柵館		-1356	
-1388	柵館Ⅱ	縄文時代土器	近内第8地割柵館	Chi-13		
-2226	大又沢Ⅰ	縄文時代中期土器・土師器	千徳第27地割大又		-2226	
-2350	岩船	縄文時代前期・中期・鉄滓・羽口	千徳第24地割岩船	054	-2350	
-2347	与茂子Ⅰ	縄文時代土器	千徳第23地割与茂子		-2348	註15
-2385	与茂子Ⅱ		千徳第23地割与茂子			
-2387	桜木	縄文時代中期・後期土器・土師器	千徳第21地割桜木	152	-2397	
LG23-2021	柵館Ⅰ	縄文時代早・中期土器、竪穴住居跡	近内第8地割柵館、千徳第24地割岩船	052・Chi-12	LG23-2021	
-1042	アサナイ沢	縄文時代前・中期・土師・須恵・羽口	近内第7地割菅ノ沢	148・Chi-11	-1043	
-2024	菅ノ沢	縄文時代早・中期・土師・鉄滓・羽口	近内第7地割菅ノ沢	147・Chi-10	-2013	
-2055	横川	縄文時代中期土器・土師器	近内第9地割横川	146・Chi-09	-2045	
-2059	近内中村	縄文時代前～晩期・土師・須恵器	近内第6地割中村	145・Chi-08	-2059	
-2133	近内踊場		近内第6地割中村、第4地割踊場	Chi-07		
-2162	近内館	城館遺跡・主郭・帯郭・物見台	近内第4地割踊場	012・Chi-06	-2162	
-2194	近内白石Ⅰ	鉄滓・マイゴ羽口	近内第3地割白石	Chi-05		
-2196	近内大館	城館遺跡	近内第3地割白石	247・Chi-04	LG33-0106	
-2197	近内白石Ⅱ	縄文時代後期土器・土師器・須恵器	近内第3地割白石	144・Chi-03	LG23-2198	
-1121	蜂ヶ沢Ⅳ		近内第5地割蜂ヶ沢			
-1151	蜂ヶ沢Ⅲ		近内第5地割蜂ヶ沢			
-1068	蜂ヶ沢Ⅱ		近内第5地割蜂ヶ沢			
-2104	蜂ヶ沢Ⅰ	縄文時代前期・後期・鉄滓・土師器	近内第5地割蜂ヶ沢	082	-2104	
-1216	小平Ⅲ	縄文時代土器	山口第12地割小平	Ya-12		
-1233	半沢	縄文時代中期・後期土器	山口第13地割半沢	134・Ya-11	-1233	
-1234	小平Ⅱ	縄文時代土器	山口第12地割小平	Ya-10		
-1253	高根	縄文時代中期土器	山口第11地割赤畑	133・Ya-08	-1264	
-1255	小平Ⅰ	縄文時代中期土器	山口第12地割小平	005・Ya-09	-1256	
-2215	赤畑	縄文時代中期土器	山口第11地割赤畑	004・Ya-07		
-2231	山口駒込Ⅱ	鉄滓	山口第9地割駒込	Ya-06		
-2244	山口駒込Ⅰ	縄文時代早期～後期・土師器・須恵器	山口第9地割駒込	065・Ya-05	-2244	
-2246	天神山	縄文時代土器・土師器・須恵器	山口第7地割神田	083・Ya-04	-2246	
-2282	延所	縄文時代土器	山口第8地割延所	Ya-13		

註14 1984年12月セネガ沢Ⅰ遺跡の北北西約200mの地点で、試掘調査が行われている。これは下閉伊北部区域農用地開発事業亀ヶ森1号幹線工事に伴う調査で、岩手県教育委員会が担当し、石鏝・鉄滓が出土している。

註15 1983年5月岩手県教育委員会文化課による下閉伊北部区域農用地開発事業関連の分布調査で見つかった。

遺跡コード	遺跡名称	遺物・遺構	所在地	市遺跡番号	県コード	備考
L G 32-1258	根市館	城館遺跡	根市第7地割雲雨沢、第8地割与藤沢	248	L G 32-1258	
-2248	老木館	城館遺跡	田鎖第1地割三合並	251	-2248	
-2333	田鎖館	城館遺跡	田鎖第1地割三合並	250	-2333	
-2358	田鎖	縄文時代中・後期土器・土師・須恵器	田鎖第2地割奇藤師	174	-2358	
-2393	栲沢		田鎖第3地割栲沢		-2393	
L G 33-0087	室井沢I	縄文時代中期・後期土器・土師器	千徳第20地割室井沢	140・Se-18	L G 33-0068	
-0099	神田沢	縄文時代中期土器・土師器	千徳第18地割神田沢	141・Se-17	-0181	
-1008	室井沢II		千徳第20地割室井沢	Se-19		
-1019	板屋I		千徳第9地割板屋	"		
-1120	板屋II		千徳第9地割板屋	"		
-0197	千徳城遺跡群	城館遺跡(千徳城・堀合館)土師器	千徳5, 8, 16, 18地割, 近内第11地割	Se-12~ Se-16		
-0138	近内寺本	縄文時代中期土器・土師器・須恵器	近内第2地割寺本	143・Chi-02	-0138	
-0148	近内寺本	土師器	近内第2地割寺本	Chi-01		
-0220	青猿I		近内第2地割寺本、千徳第3地割青猿	142・Se-11		
-0222	青猿II	土師器・弥生式土器・竪穴	千徳第3地割青猿	Se-09	-0223	註16
-0202	青猿III	縄文時代中期土器・土師器	千徳第3地割青猿	Se-10		
-0225	長根IV		千徳第2地割長根、山口第6地割狐崎	Se-04		
-0234	長根III	土師器	千徳第2地割長根	Se-07		
-0253	長根I	城館遺跡	千徳第2地割長根、第3地割青猿	Se-08		
-0226	長根V		千徳第2地割長根、山口第6地割狐崎	Se-04		
-0236	長根寺I	寺院趾	千徳第2地割長根	Se-05		
-0245	長根II	土師器	千徳第2地割長根	Se-06		
-0247	長根寺II	縄文土器・土師器	千徳第2地割長根	Se-02	-0248	
-0257	長根寺III		千徳第2地割長根	Se-03		
-0207	狐崎	縄文時代土器	山口第6地割狐崎	Ya-04		註17
-0218	泉町狐崎II	奈良・平安時代土器・鉄器	山口第6地割狐崎・泉町	Iz-04		註18
-0238	泉町狐崎III		山口第6地割狐崎・泉町	Iz-03		
-2086	松山館	城館遺跡・須恵器・竊手刀	田鎖5地割鰻内、松山13地割大久保沢	249	-2086	
-2162	松山下谷地	縄文時代土器・須恵器・鉄滓・土師器	松山第8地割下谷地	062	-2153	
-2166	松山大地田沢	土師器・竪穴住居跡	松山第7地割大地田沢	172	-2155	
-2197	隠里I	縄文時代中期土器・須恵器・鉄滓	八木沢第3地割中村	171	L G 43-0107	
-2189	隠里II	縄文時代中・後期土器・土師器・鉄滓	八木沢第3地割中村	169	L G 33-2189	
-2292	隠里III	縄文時代中・後期・土師器・須恵器	八木沢第3地割中村	170		
-2288	八木沢守ノ越II	縄文時代土器	八木沢第2地割守ノ越	Yag-10		
-1273	木戸井内	縄文時代土器・竪穴	千徳第14地割木戸井内			註19
-1237	岩ヶ沢	縄文時代前期土器・土師器・須恵器	小山田第2地割岩ヶ沢	Koy-06		
L G 42-0384	花輪館	城館遺跡	花輪第5地割程久保	253	L G 42-0394	
-1312	程久保	城館遺跡	花輪第5地割程久保			
-1237	寺沢II	縄文時代土器	長沢第17地割寺沢			
-1257	寺沢I	縄文時代前期・中期土器	長沢第17地割寺沢	243	-1256	

註16 1984年緊急調査が行われ、尾根上に竪穴・土壇・竪穴住居跡が検出されている。

註17 1985年試掘調査により縄文時代の遺物が出土している。

註18 1981年緊急調査が行われ、尾根上に奈良時代の住居跡が検出されたほか、縄文時代後期の包含層が見られた。本書 55P, Photo.25

註19 1984年試掘調査により竪穴及び縄文時代の遺物が確認されている。

6 LG43

遺跡コード	遺跡名称	遺物・遺構	所在地	市遺跡番号	県コード	備考
LG43-0102	七所沢Ⅰ	土師器	松山第10地割七所沢			
-0122	七所沢Ⅱ	縄文土器	松山第10地割七所沢			
-0200	隠里Ⅳ	縄文時代中・後期・土師・須恵器・鉄滓・羽目	八木沢第3地割中村	170	LG43-0201	
-0212	隠里Ⅴ	土師器・鉄滓	八木沢第3地割中村			
-0230	隠里Ⅵ	土師器・鉄滓・羽目	八木沢第3地割中村			
-0138	隠里Ⅶ		八木沢第3地割中村			
-0205	八木沢Ⅱ	縄文時代土器	八木沢第3地割中村	Yag-12		
-1206	八木沢駒込Ⅰ	縄文時代織物土器・土師器・鉄滓	八木沢第8地割駒込	020・Yag-13	-1206	
-1244	八木沢駒込Ⅱ	縄文時代前期土器	八木沢第8地割駒込	Yag-14		
-1040	鱒沢館	城館遺跡	花輪第17地割鱒沢、第1地割姉戸			
-1042	鱒沢Ⅰ		花輪第17地割鱒沢			

7 LG23, 24

遺跡コード	遺跡名称	遺物・遺構	所在地	市遺跡番号	県コード	備考	
LG23-1332	黒森田	41〜44 4 LG23					
-1326	黒森						
-1309	南沢Ⅰ						
-1349	寒風						
-1364	黒森マキ沢						
-2310	山口館		城館遺跡	山口第5地割久保、第10地割橋場	246・Ya-03	LG23-2300	
-2323	拝殿峠		縄文時代後期土器	山口第4地割田ノ神前、3地割中谷地	132・Ya-02	-2323	
-2325	小沢Ⅴ神龍石		縄文時代晩期土器・土偶・土師器	小沢二丁目	069・Ko-05	-2325	
-2336	小沢Ⅳ人形塚		縄文時代後期土器・土師器・須恵器	小沢二丁目	026・Ko-04	-2336	
-2346	小沢Ⅲ石倉平		縄文時代中期・後期土器	小沢二丁目	025・Ko-03	-2347	
-2377	小沢Ⅱ貝塚	縄文時代早期・貝層	小沢二丁目	024・Ko-02	-2378		
-2353	拝殿マ沢	縄文時代土器・鉄滓・土師・須恵器	西町四丁目	028・Ya-01	-2353		
LG24-1000	早稲橋Ⅴ	41〜44 4 LG24					
-1020	早稲橋Ⅳ						
-1069	佐原						
-1166	平松Ⅰ						
-1184	平松Ⅱ						
-1187	平松Ⅲ						
-2003	日の出町Ⅰ		縄文時代前期土器	日の出町	071・Hi-01	LG24-2013	
-2033	日の出町Ⅱ		縄文時代中期土器・フネゴ羽目	日の出町	128・Hi-02	-2034	
-2044	日の出町Ⅲ		縄文時代土器	日の出町	068・Hi-03	-2044	
-2076	沢田Ⅰ		土師器	沢田	238・Hi-04	-2085	
-2087	沢田Ⅱ			沢田	At-02		
-2190	小山根		縄文時代土器・弥生時代土器・土師器	中里団地、愛宕一丁目	003・At-01	-2192	
-2080	小沢Ⅰ大土		縄文時代土器	小沢一丁目	027・Ko-01	-2080	
-2150	日影町Ⅰ		縄文時代晩期土器	日影町	Ku-01		
-2175	日影町Ⅱ			日影町	Ku-02		
-2183	鯉ヶ崎館山貝塚	縄文時代早・前・中・後期、自然遺物堆積層	鯉ヶ崎下町	001・Ku-03	-2164	註20	
-2158	井戸マ沢	縄文時代土器	蛸の浜町		-2158		

註20 鯉ヶ崎館山貝塚は古くから研究者により踏査されており、特に中島吉兵衛氏は詳細な資料紹介を行っている。1911年『先史遺物帖』中島吉兵衛著
また、出土した釣針等の資料は『Prehistoric Fishing in Japan』（1911年岸上謙吉『東京大学農科大学研究紀要2巻』）に掲載されている。

1983『宮古市遺跡分布調査報告書1』32-44P・本書53〜54P、Photo.20〜22

1984『岸上謙吉 日本先史時代の漁撈』小田野哲憲、岩手県立博物館研究報告第2号。

遺跡コード	遺跡名称	遺物・遺構	所在地	市遺跡番号	県コード	備考
L G 33-0310	泉町狐崎 I	土師器	山口第 6 地割狐崎、泉町	131-Iz-02	L G 33-0310	
-0311	鴨崎 I	土師器	鴨崎町	Iz-01		
-0322	鴨崎 II	土師器・須恵器	鴨崎町	074・Km-01	-0323	
-0340	笠間館	城館遺跡	千徳第 1 地割猫ヶ沢、館合町		-0343	
-0385	横山	土師器、須恵器、鉄滓	宮町二丁目	030	-0385	
-1370	小山田館	城館遺跡	小山田第 5 地割和山、大畑	Koy-04	-1371	
-1380	小山田 I	土師器・鉄滓	小山田第 5 地割和山、大畑	Koy-05		
-2306	小山田 II	土師器	小山田第 6 地割半ヶ鼻	Koy-03	-2306	
-2349	磯鶏竹洞 II	縄文時代土器・土師器	磯鶏第 6 地割竹洞	160・Yag-01	-2339	
-2343	遠架峠	土師器	八木沢第 1 地割太田前	163・Yag-03	-2344	
-2372	八木沢守ノ越 III	縄文時代土器・土師器	八木沢第 2 地割守ノ越	Yag-08	-2372	
-2351	八木沢守ノ越 IV	縄文時代土器・土師器	八木沢第 2 地割守ノ越	Yag-07		
L G 34-0025	黒田館	城館遺跡	本町・沢田	Mo-01	L G 34-0016	
-0122	夏保	縄文時代土器	嶽ヶ崎第 1 地割夏保	Ku-04		
-0103	嶽ヶ崎仲町	縄文時代土器	嶽ヶ崎仲町	Ku-05		
-0124	嶽ヶ崎上町	縄文時代土器	嶽ヶ崎上町	Ku-06		
-0143	光岸地	縄文時代晩期土器	光岸地	Ku-07		註21
-1007	藤原上町 I	縄文時代前期土器・須恵器	藤原上町	Fu-01	-1018	
-1027	藤原上町 II	奈良時代末～平安初頭竪穴住居跡	藤原上町	076・Fu-02	-1027	註22
-1047	磯鶏石崎	縄文時代土器・土師器	磯鶏第 1 地割石崎	Fu-04		
-1045	藤原上町 III	縄文時代土器・土師器	藤原上町	078・Fu-03	-1045	
-1075	早坂	縄文時代早期、弥生・土師・須恵器	磯鶏第 3 地割上村	019・So-01	-1065	
-1073	小沢田	縄文時代中期・土師器・須恵器	磯鶏第 3 地割上村	017・So-02	-1074	
-1085	上村貝塚	縄文時代中期、住居跡・貝層	磯鶏第 3 地割上村	016・So-03	-1086	
-1084	上村 II	縄文時代中期土器・土師器	磯鶏第 3 地割上村	154・So-04	-1093	
-2007	磯鶏敷夷森貝塚	縄文時代中期・土師器・須恵器	磯鶏第 3 地割上村、第 6 地割竹洞	015・So-05	-2007	註23
-1091	上村 III	縄文時代中期土器・土師器	磯鶏第 3 地割上村	155・So-06	-1081	
-2001	上村 IV	縄文時代中期土器・土師器	磯鶏第 3 地割上村	156・So-07	-2001	
-2013	磯鶏竹洞 I	縄文時代中期土器・土師器	磯鶏第 6 地割竹洞、第 3 地割上村	157・So-08	-2013	
-2123	磯鶏沖	城館疑定地・台場跡	磯鶏第 4 地割沖			
-2155	磯鶏館山	城館遺跡・平安集落	磯鶏第 11 地割岸ノ前	So-09		註24
-2076	仏沢 I	土師器	磯鶏第 12 地割仏沢	So-10	-2076	
-2091	島田	平安時代集落	八木沢第 4 地割島田	158・Yag-02	-2092	註25
-2097	仏沢 II	縄文時代土器・土師器	磯鶏第 12 地割仏沢	So-11		
L G 43-0301	八木沢守ノ越 I	縄文時代土器	八木沢第 2 地割守ノ越	Yag-09		
-0312	八木沢新館	城館遺跡	八木沢第 3 地割八木沢、2 地割守ノ越	256・Yag-05	L G 43-0312	
-0330	八木沢 I 白山下	縄文時代中期土器	八木沢第 3 地割八木沢	164・Yag-11	-0331	
-0357	八木沢古館	城館遺跡	八木沢第 5 地割寺ヶ沢、第 6 地割中田	257・Yag-06	-0357	

註20 嶽ヶ崎に通じる切り通しを開削した際に縄文時代晩期の土器が出たと伝えられる。

註21 1972年、田村忠博氏が崖面で竪穴住居跡を発見し、石組みの煙道を持つカマド部分を発掘している。当時の新聞報道によると 8 世紀代の住居跡と伝えられている。

註22 1967年7月「宮古市指定史跡・縄文時代の屈葬人骨が発掘されている」。

註23 1984年から港湾埋立てに伴う緊急調査が行われており、遺跡の西側に伸びる尾根上には平安時代の集落（14棟）が発見されている。

1985年現在、調査続行中であり、今後主郭部分の調査が行われる予定である。本書 56 P, Photo.26・57 P, Photo.27

註24 1984～1985年に運転免許センター用地造成に伴う緊急調査が行われ、平安時代竪穴住居跡 8 棟等が調査されている。

7 LG44

遺跡コード	遺跡名称	遺物・遺構	所在地	市遺跡番号	県コード	備考
LG44-0003	磯鷄中谷地	土師器・須恵器	磯鷄第8地割中谷地	159・Yag-04		
-0095	高浜1坂ノ下	縄文時代土器	高浜第1地割坂ノ下	Ta-01	LG44-1006	
-1013	高浜II今ヶ洞	縄文時代前期・中期・後期土器	高浜第2地割今ヶ洞	182・Ta-02	-1013	
-1032	高浜田熊野	縄文時代土器	高浜第3地割熊野	Ta-03	-1032	
-0351	白浜I	縄文時代前期・後期土器	白浜第1地割白浜	077	-0351	
-0268	白浜II	縄文時代土器	白浜第1地割白浜			
-0287	白浜III	縄文時代中期土器	白浜第1地割白浜	023	-0287	
-1209	白浜IV	縄文時代前期・中期・後期土器	白浜第1地割白浜、第2地割日蔭	211	-1300	
-1234	白浜太田浜I	縄文時代中期・後期土器	白浜第3地割太田浜	209	-1234	
-1247	白浜太田浜II		白浜第3地割太田浜	210	-1239	
-1311	白浜V	縄文時代前期・中期土器	白浜第2地割日蔭	212	-1322	

8 LG25, 35, 44, 45

遺跡コード	遺跡名称	遺物・遺構	所在地	市遺跡番号	県コード	備考
LG25-2211	大浜I	縄文時代土器	重茂第29地割戸ノ崎		LG25-2220	
-1129	大浜II	縄文時代前・中・後期・土師・須恵器	重茂第29地割戸ノ崎	214		
-2159	平浜	縄文時代中期・後期土器	重茂第29地割戸ノ崎	215	-2159	
-2187	大塚I	縄文時代前期・中期・後期土器	重茂第29地割戸ノ崎	216	-2187	
LG35-0113	追切	縄文時代中期・後期土器	重茂第30地割追切	038	LG35-0113	
-0201	大塚II	縄文時代前期・中期土器	重茂第29地割戸ノ崎	217	-0211	
-0230	大塚III	縄文時代土器	重茂第29地割戸ノ崎			
-0184	笹沢I	縄文時代土器	重茂第30地割追切			
-0164	笹沢II	縄文時代土器	重茂第30地割追切			
-0155	笹沢III	縄文時代土器	重茂第29地割戸ノ崎			
-0168	笹沢IV	縄文時代土器	重茂第29地割戸ノ崎			
-0179	立浜	縄文時代前期・中期土器	重茂第29地割戸ノ崎	218	-0179	
-0196	笹沢V	縄文時代土器	重茂第29地割戸ノ崎			
-1123	加村	縄文時代後期・晩期土器	重茂第28地割千束、第29地割戸ノ崎	037	-1123	
-1144	赤なしか沢	縄文時代前期・中期・後期土器	重茂第27地割塚ノ神	219	-1145	
-1240	仲組I	縄文時代土器	重茂第27地割塚ノ神			
-1174	仲組II	縄文時代土器	重茂第27地割塚ノ神、第28地割千束			
-1177	仲組III	縄文時代土器	重茂第27地割塚ノ神			
-1179	仲組V	縄文時代土器	重茂第27地割塚ノ神			
-2117	塚ノ神	縄文時代土器	重茂第27地割塚ノ神、第28地割千束	220	-2117	
LG44-1317	白浜VI	縄文時代土器	白浜第1地割白浜			
-1328	白浜VII	縄文時代中期土器	白浜第2地割日蔭	213	LG44-1328	
LG45-0274	鶴磯遺跡	縄文時代前期・中期土器	重茂第25地割小平、第26地割鶴磯	035	LG45-0285	
-1222	荒巻I	縄文時代早期・前期・中期土器	重茂第24地割荒巻、第25地割小平	036	-1222	
-1137	荒巻II	縄文時代中期	重茂第24地割荒巻	221	-1135	

9 LG61

遺跡コード	遺跡名称	遺物・遺構	所在地	市遺跡番号	県コード	備考
LG61-0116	南川目I	縄文時代中期土器	長沢第5地割上陽南川目		LG61-0116	
-0153	南川目II	縄文時代土器	長沢第5地割上陽南川目			
-0165	南川目III	縄文時代土器	長沢第5地割上陽南川目			

10 L G 42, 52

遺跡コード	遺跡名称	遺物・遺構	所在地	市遺跡番号	県コード	備考
L G 42-0234	老木西根	縄文時代土器	老木第7地割西根	2 5 4	L G 42-1276	
-0265	老木南沢	縄文時代土器	老木第4地割南沢			
-1276	長沢館	城館遺跡	長沢第16地割中家和戸、第17地割寺沢			
-1292	長沢内の沢	縄文時代土器	長沢第15地割内の沢			
-2281	長沢高	平安時代竪穴住居跡・鉄滓・羽口	長沢第12地割向			
L G 52-0127	豊峯沢Ⅰ	縄文時代土器	長沢第7地割百峯、船ヶ沢口	1 7 9	L G 52-0127	
-0137	豊峯沢Ⅱ	縄文時代石器・石皿・打製石斧	長沢第7地割百峯、船ヶ沢口			
-0159	豊峯沢Ⅲ	縄文時代土器	長沢第7地割百峯、船ヶ沢口			

註26 1982、1983年に土砂採取工事に伴う緊急調査が行われ、尾根上に平安時代の竪穴住居跡、竪穴、鉄滓、フイコ羽口などが出土している。

11 L G 42, 43, 52

遺跡コード	遺跡名称	遺物・遺構	所在地	市遺跡番号	県コード	備考
L G 42-2249	折壁館	城館遺跡	長沢第12地割向、第21地割中折壁	2 5 5	L G 42-2249	
-1395	下折壁Ⅱ	城館遺跡	長沢第20地割下折壁、花輪第1地割姉戸	1 7 6		
-2391	中折壁Ⅰ	縄文時代前期・中期・後期土器	長沢第21地割中折壁			
-2326	下折壁Ⅰ	縄文時代土器	長沢第20地割下折壁			
-2398	下大野Ⅰ	縄文時代土器	長沢第23地割下大野			
L G 43-1073	鱒沢Ⅱ	縄文時代前期・中期・後期、鉄滓	花輪第17地割鱒沢	1 7 5	L G 43-1083	
-2076	大谷地Ⅳ	縄文時代土器	花輪第18地割大谷地	0 6 3		
-2068	大谷地Ⅲ	鉄滓・羽口	花輪第18地割大谷地			
-2170	大谷地Ⅱ	縄文時代早期・前期・中期、鉄滓	花輪第18地割大谷地	1 6 8		
-2143	大谷地Ⅰ	縄文時代土器	花輪第18地割大谷地			
-2147	下大谷地Ⅵ	縄文時代前期・中期・後期、鉄滓	八木沢第9地割大谷地			
-2222	下大谷地Ⅲ	縄文時代土器、鉄滓	八木沢第9地割大谷地	1 6 7		
-2233	下大谷地Ⅳ	縄文時代土器	八木沢第9地割大谷地			
-2264	下大谷地Ⅴ	鉄滓	八木沢第9地割大谷地	1 6 6		
-2204	下大谷地Ⅱ	縄文時代前期・中期土器	八木沢第9地割大谷地	050-Yag-15		
-2206	下大谷地Ⅰ	縄文時代前期・中期土器	八木沢第9地割大谷地			
-1257	八木沢Ⅲ野来	縄文時代早期・前期土器	八木沢第8地割駒込	1 6 5		
-2209	賽の神	縄文時代前期・中期・後期土器	金浜第1地割西角地			
L G 52-0321	中折壁Ⅱ	縄文時代前期 縄文時代前期・中期	長沢第21地割中折壁	1 7 7	L G 52-0376	
-0328	下大野Ⅱ		長沢第23地割下大野			
-0336	中大野Ⅰ		長沢第24地割中大野			
-0347	中大野Ⅱ		長沢第24地割中大野			
-0357	上大野Ⅰ		長沢第25地割上大野			
-0387	上大野Ⅱ		長沢第25地割上大野			
-1317	上大野Ⅲ		長沢第25地割上大野			
-0379	長沢横街道Ⅱ		長沢第26地割横街道			
-2357	上根井沢Ⅳ		津軽石第20地割根井沢			
-2369	上根井沢Ⅲ		津軽石第20地割根井沢			

遺跡コード	遺跡名称	遺物・遺構	所在地	市遺跡番号	県コード	備考
LG53-0060	長沢横街道Ⅰ	縄文時代中期土器	長沢第26地割横街道	178	LG53-0061	
-0072	長沢横街道Ⅲ	縄文時代土器	長沢第26地割横街道			
-0027	大谷地Ⅴ	縄文時代土器	花輪第18地割大谷地、長沢26横街道			
-1093	長沢横街道Ⅳ	縄文時代土器	長沢第26地割横街道			
-2062	上根井沢Ⅰ	縄文時代土器	津軽石第20地割根井沢			
-2063	上根井沢Ⅰ	縄文時代早期・中期・後期土器	津軽石第20地割根井沢	042		-2063
-2078	根井沢Ⅱ	縄文時代前期・鉄滓	津軽石第18地割根井沢日向			-2078
-2152	根井沢Ⅰ	縄文時代前期・中期土器、製鉄遺構	津軽石第18地割根井沢日向	193		-2152 註27
-2164	根井沢日影Ⅱ	縄文時代土器	津軽石第17地割根井沢日影			
-2148	根井沢日影Ⅰ	縄文時代中期土器	津軽石第17地割根井沢日影	192		-2148
-2129	根井沢穴田Ⅴ	縄文時代早期・前期・中期土器	津軽石第19地割穴田	191・Tu-09		-2129
-2201	根井沢穴田Ⅳ	縄文時代前期・中期土器	津軽石第19地割穴田	190・Tu-08		-2200
-1290	根井沢穴田Ⅲ	縄文時代土器	津軽石第19地割穴田			-1291
-1281	根井沢穴田Ⅱ	縄文時代前期・中期・後期土器	津軽石第19地割穴田	189・Tu-07		
-1273	根井沢穴田Ⅰ	縄文時代中期・土師器	津軽石第19地割穴田	087・Tu-06		-1283
-1266	沼里館	城館遺跡	津軽石第6地割沼里、第19地割穴田	260・Tu-05		-1266
-1225	沼里	縄文時代後期土器、奈良時代住居跡	津軽石第4地割大森、第6地割沼里	059・Tu-04		-1226 註28
-1207	津軽石大森	縄文時代中期・後期土器	津軽石第4地割大森	041・Tu-03		-1208
-0268	馬越Ⅰ	縄文時代後期土器・土師器・鉄滓	津軽石第3地割馬越	085・Tu-02		-0279
-0246	馬越Ⅱ	土師器・鉄滓	津軽石第3地割馬越			-0257
-2205	高平館	城館遺跡	津軽石第9地割吉原、第10地割向川原	Tu-10		
-2264	弘川館	城館遺跡	津軽石第14地割弘川、第10地割向川原	258・Tu-11		-2264
-2294	弘川Ⅰ	縄文時代前期・中期・晩期・土師器	津軽石第14地割弘川	044・Tu-12		-2294
-2291	弘川Ⅱ	縄文時代土器・土師器	津軽石第14地割弘川	Tu-13		
LG63-0022	荷竹米山Ⅶ		津軽石第16地割荷竹日向、米山			
-0026	荷竹米山Ⅵ		津軽石第16地割荷竹日向、米山			
-0054	荷竹米山Ⅴ		津軽石第16地割荷竹日向、米山			
-0086	荷竹米山Ⅳ	縄文時代中期土器	津軽石第16地割荷竹日向、米山	199	LG63-0085	
-0190	荷竹米山Ⅲ	縄文時代中・後期・弥生・土師・須恵器	津軽石第16地割荷竹日向、米山	198		-0190
-1019	荷竹米山Ⅱ		津軽石第16地割荷竹日向、米山			
-1111	荷竹米山Ⅰ		津軽石第16地割荷竹日向、米山			
-0174	荷竹日向Ⅴ	縄文時代土器	津軽石第16地割荷竹日向			
-0177	荷竹日向Ⅳ	縄文時代土器・鉄滓	津軽石第16地割荷竹日向	057		-0176
-0157	荷竹日向Ⅲ	縄文時代中期土器・土師器・須恵器	津軽石第16地割荷竹日向	197		-0157
-0159	荷竹日向Ⅱ	縄文時代土器・土師器・鉄滓	津軽石第16地割荷竹日向			
-0231	荷竹日向Ⅰ	縄文前・中・晩期・土師・須恵器	津軽石第16地割荷竹日向	196		-0231
-0272	荷竹日影Ⅰ		津軽石第15地割荷竹日影			
-0280	荷竹日影Ⅱ		津軽石第15地割荷竹日影			
-1154	荷竹日影Ⅲ	土師器	津軽石第15地割荷竹日影			
-1152	荷竹日影Ⅳ		津軽石第15地割荷竹日影			
-1140	荷竹日影Ⅴ	土師器、鉄滓	津軽石第15地割荷竹日影			
-0200	弘川Ⅲ	縄文時代前・中・後期・土師器・須恵器	津軽石第14地割弘川			-0119

註27 土取りの際にフイゴ羽口10本・鉄滓が出土し、カッティングで製鉄遺構3基が確認されている。『宮古市遺跡分布調査報告書4』18P

註28 耕作中に奈良時代の埴・甕が出土している。出土状況から竪穴住居跡のカマド付近からの一括出土とみられる。

『宮古市遺跡分布調査報告書3』42P

12

L G 43, 44, 53, 54

遺跡コード	遺跡名称	遺物・遺構	所在地	市遺跡番号	県コード	備考
L G 43-1369	高浜Ⅳ 横須賀	縄文時代中期土器・後期土器	高浜第5地割大沢、第4地割横須賀	021・Ta-04	L G 43-1368	
-1398	高浜Ⅴ 下地神	縄文時代早期・前期・中期土器	高浜第6地割下地神、地神	081・Ta-05	-1398	
-2316	高浜Ⅵ 地神	縄文時代中期土器	高浜第6地割下地神、地神	Ta-06		
-2314	金浜堤ヶ沢	鉄滓	金浜第1地割堤ヶ沢、西角地	Ka-01	-2304	
-2335	金浜館	城館遺跡・縄文時代フラスコ状ヒット	金浜第1地割西角地、堤ヶ沢	Ka-02	-2334	註29
-2342	金浜Ⅰ	縄文時代前期・中期・後期土器	金浜第2地割古館、第3地割妻の上	185・Ka-03	-2331	
-2363	金浜Ⅱ	土師器	金浜第2地割古館、第3地割妻の上	186・Ka-04	-2364	
-2384	金浜Ⅲ	縄文時代土器・土師器	金浜第4地割鋤ヶ崎	Ka-05		
-2394	金浜Ⅳ	縄文時代土器	金浜第4地割鋤ヶ崎	Ka-06		
L G 44-1271	白浜太田浜Ⅲ	縄文時代中期土器	白浜第3地割太田浜	208		
-1282	白浜太田浜Ⅳ	縄文時代土器	白浜第3地割太田浜		L G 44-1283	
-1290	白浜太田浜Ⅴ	縄文時代土器	白浜第3地割太田浜			
-1155	堀内Ⅰ	縄文時代土器	赤前第17地割柳浜			
-2167	堀内Ⅱ	縄文時代土器	赤前第16地割堀内			
-2290	堀内Ⅲ	縄文時代前期・中期	赤前第16地割堀内	207	-2280	
-2195	堀内Ⅳ	縄文時代土器	赤前第15地割堀内			
L G 53-0313	金浜Ⅴ	縄文時代中期土器・鉄滓	金浜第5地割馬越、第7地割船川原	187・Ka-07	L G 53-0313	
-0382	山崎館	城館遺跡	津軽石第3地割馬越、第1地割法の脇	Tu-01		
-2346	藤畑	縄文時代土器・土師器・須恵器	津軽石第12地割藤畑	200・Tu-15	-2357	
-1389	久保田	縄文時代土器・土師器	赤前第2地割久保田	048・Tu-14	-1080	
L G 54-0113	小堀内Ⅰ	縄文前～晩期・奈良時代土師器・弥生	赤前第14地割小堀内	206	L G 54-0114	
-0123	小堀内Ⅱ	縄文時代土器	赤前第14地割小堀内	205	-0124	
-0142	小堀内Ⅲ	縄文時代土器	赤前第14地割小堀内	204	-0152	
-0160	赤前Ⅵ 釜屋ヶ沢	縄文時代土器	赤前第13地割釜屋ヶ沢	203・Ak-06		
-0089	赤前Ⅴ 柳沢	縄文時代土器・土師器	赤前第12地割柳沢	Ak-05	-0190	
-1008	赤前Ⅳ 八枚田	縄文早・中期・平安時代竪穴・羽口	赤前第11地割八枚田	202・Ak-04	-1008	註30
-1025	赤前Ⅲ	縄文早・中期・平安時代竪穴・鉄滓	赤前第7地割御蔵、10山崎、11八枚田	043・Ak-03	-1025	註31
-1064	赤前館	城館遺跡	赤前第5地割神田	259・Ak-02	-1074	
-1072	赤前Ⅰ 牛子沢	縄文時代前期・中期・後期土器	赤前第3地割牛子沢	201・Ak-01	-1072	

註29 1980年老人福祉センター建設に伴う緊急調査が行われ、堀跡・建物跡・天目茶碗・青磁、また縄文時代のフラスコ状ヒット47基が検出されている。『金浜館発掘調査報告書』1985年 宮古市教育委員会。本書 57～58P, Photo.29～31

註30 1979年12月学校建設に伴う緊急調査が行われ平安時代竪穴式住居3棟、縄文時代早期包含層、フイゴ羽口等が検出されている。本書 55P, Photo.24

註31 1982年8～11月宅地造成に伴う緊急調査が行われ平安時代竪穴式住居2棟などが検出されている。

『赤前遺跡群第1次、第2次発掘調査報告書』1984年 宮古市教育委員会

13 L G 45, 54, 55

遺跡コード	遺跡名称	遺物・遺構	所在地	市道跡番号	県コード	備考
L G 45-2154	小角柄Ⅳ	縄文時代土器	音部第11地割横道			
-2156	小角柄Ⅲ	縄文時代土器	音部第11地割横道			
-2146	小角柄Ⅱ	縄文時代中期土器	音部第9地割後釜	2 2 3	L G 45-2146	
-2159	小角柄Ⅰ	縄文時代前期・中期土器	音部第8地割坂	2 2 2	-2158	
-2225	音部大下	縄文時代中期土器	音部第5地割大下	0 4 0	-2215	
-2294	音部遺磯	縄文時代土器	音部第3地割追磯			
-2239	音部谷地頭Ⅰ	縄文時代後期土器	音部第1地割谷地頭	2 2 4	-2239	
-2268	音部谷地頭Ⅱ	縄文時代中期・後期土器	音部第1地割谷地頭	2 2 5	-2268	
-2296	音部谷地頭Ⅲ	縄文時代中期・後期土器	音部第1地割谷地頭			
L G 54-1379	麦生野Ⅵ	縄文時代後期土器・土師器	音部第7地割坂ノ上	2 2 7	L G 54-1379	
L G 55-1071	麦生野Ⅴ	縄文時代土器	音部第7地割坂ノ上第4地割須賀長根			
-1052	麦生野Ⅵ	縄文時代土器	音部第7地割坂ノ上			
-1022	麦生野Ⅲ	縄文時代土器	音部第7地割坂ノ上			
-0083	麦生野Ⅰ	縄文時代土器	音部第7地割坂ノ上			
-1004	麦生野Ⅱ	縄文時代前期・中期土器	音部第4地割須賀長根	2 2 6	L G 55-1013	
-0242	笹見内Ⅰ	縄文時代土器	重茂第2地割館			
-0234	笹見内Ⅱ	縄文時代土器	重茂第2地割館			
-0284	重茂館遺跡群	城館遺跡・縄文時代前～晩期土器	重茂第1地割西大館、第2地割館、第3地割大浜	034・01-01 ～-04	-0283	

14 L G 75

遺跡コード	遺跡名称	遺物・遺構	所在地	市道跡番号	県コード	備考
L G 75-0345	千鶴Ⅰ	縄文時代前期土器	重茂第11地割千鶴上野	228・Chi-01	L G 75-0345	
-0363	千鶴Ⅱ	縄文時代前期・中期・後期土器	重茂第11地割千鶴上野	229・Chi-02	-0373	
-0332	千鶴Ⅲ	縄文時代中期・後期土器	重茂第11地割千鶴上野	230・Chi-03	-0322	
-0248	千鶴Ⅳ	縄文時代前期～晩期土器	重茂第12地割上野	231・Chi-04	-0249	
-0245	千鶴Ⅴ 殿畑	縄文時代中期・後期土器	重茂第13地割殿畑	232・Chi-05	-0244	
-1311	千鶴Ⅵ 山向	縄文時代前期・中期・後期土器	重茂第14地割千鶴川向、第15地割神祠	233・Ishi-01	-1311	
-1238	石浜Ⅰ	縄文時代中期・後期土器	重茂第16地割石浜	234・Ishi-02	-1238	
-1227	石浜Ⅱ	縄文時代土器	重茂第16地割石浜	Ishi-03		

15 L G 75, 85

遺跡コード	遺跡名称	遺物・遺構	所在地	市道跡番号	県コード	備考
L G 75-0345	千鶴Ⅰ	14 L G 75				
-1227	石浜Ⅱ					
-1264	石浜Ⅲ		縄文時代土器	重茂第19地割南大野		
L G 85-0188	川代Ⅰ	縄文時代前期・中期土器	重茂第21地割川代	2 3 5	L G 85-0189	
-0176	川代Ⅱ	縄文時代土器	重茂第22地割川代赤坂、第21地割川代			
-0183	川代Ⅲ	縄文時代中期・後期土器	重茂第22地割川代赤坂	2 3 6	-0194	

IV 発掘された宮古の遺跡

1. 縄文時代の遺跡と遺物

崎山トロノ木I遺跡(LG14-2048)では、1981～1985年にかけて7次にわたり発掘調査が行われてきました。今までの調査では、縄文時代中期の竪穴式住居跡3棟、近世の建物跡・井戸跡などが発掘されています。

Photo.19は、1983年の第4次調査で発掘された縄文時代中期の竪穴式住居跡で、大きさは4.3×3.4mほどで、家の中に石組みの炉があり、床面には柱をすえた穴が見られます。

Photo.20は、鯨ヶ崎館山貝塚(LG24-2183)から出土した土器と土偶で縄文時代中期・後期のものです。この貝塚からはたくさんの土器のほかに、当時の人々が食べたイノシシ・鹿・魚などの骨や貝などが出土しています。**Photo.21**がその一部で、縄文時代の人々の食生活の一端を知ることができます。また鹿の角などを巧みに利用して釣針などの骨角器を作っています。**Photo.22**は、鯨ヶ崎館山貝塚から出土した骨角器で当時の漁労がどのように行われていたかを探る手がかりとなります。このように貝塚遺跡からは当時の様子を知る多くの資料が得られるのです。

また磯鷄蝦夷森貝塚(LG34-2007)と大付遺跡(LG14-2291)からは、縄文人の骨が発掘されています。**Photo.23**は1979年に大付遺跡で発掘された縄文時代の終わり頃(晩期)の人骨で、土器を添えて埋葬された状態が明らかになっています。人骨からは年齢や性別・身長など形質人類学的な特徴や当時の風習などがわかり、考古学的にも大変重要な資料となっています。

2. 奈良・平安時代の遺跡と遺物

奈良・平安時代の遺跡は、現在のところ90ヶ所ちかく確認されていますが、最近の調査でこの時代の様子がいくらかわかるようになってきました。

Photo.24は、現在赤前小学校の校庭になっているところで発掘された平安時代の竪穴式住居跡で、この他に2棟の住居跡が調査されており、平安時代の集落の一部と考えられています。この時代の住居にはカマドがつくり付けられており、この住居にも西側にりっぱなカマドが見つかっています。この住居跡の大きさは5.5×5.2mほどで、約9坪ほどの床面積の家ということになります。

Photo.25は泉町狐崎II遺跡(LG33-0218)で発掘された奈良時代の住居跡で、尾根の上に作られたものです。このように山の尾根上に奈良・平安時代の住居跡が発見される例が最近増えてきました。最も良い例は、1985年に磯鷄館山遺跡(LG34-2155)の一部で調査された住居跡群で、尾根の上に8棟の住居跡が検出され、南側の斜面でも6棟発掘されています。平安時代の集落のひとつの形態を表わす好例といえます。(Photo.26)

奈良・平安時代の人々は「土師器」という素焼きの土器を使って煮炊きなどしていました。**Photo.27**は津軽石地区から出土した奈良時代の土師器で壺や坏など様々な形のものがあり、当時の生活の様子を知る手がかりになります。

3. 中世の遺跡と遺物

今から約800～400年前、鎌倉～戦国時代の宮古はどんな様子だったのでしょうか。これを知るひとつの手がかりとなるのは、館跡や城跡などの「城館遺跡」なのです。市内には今のところ30ヶ所以上の城館遺跡が確認されており、中世の歴史をさぐる上で欠くことのできない遺跡となっています。

Photo.28は、1984年から調査が進められている磯鶏館山遺跡で、この写真でわかるように頂上部や斜面に平場が作られている状態がはっきり残っています。このように「城館遺跡」は、当時の形態が今でもある程度わかるため考古学的に重要であるとともに、史跡公園にするなどの整備を行えば、当時の様子を身近に感じ取ることができるという歴史的環境を備えた遺跡なのです。

Photo.29～31は、1980年に発掘調査された金浜館（L.G 43-2335）の空中写真と出土遺物で、館跡からは空堀りや建物の跡が見つかり、金浜館の形態が明らかにされました。建物跡からは、ほぼ完全な形の「天目茶碗」が2点出土しています。これは今から350～400年前の戦国時代の終り頃、美濃で焼かれたものと考えられており、金浜館が築かれた年代や当時の交易を考える上でも大変重要な資料となっています。

以上「発掘された宮古の遺跡」の代表的なものを紹介してきましたが、市内にはまだまだたくさんの遺跡や貴重な資料が埋もれております。これらを大切に保存し後世に伝え残していくことが、現在に生きる私達市民のつとめではないでしょうか。

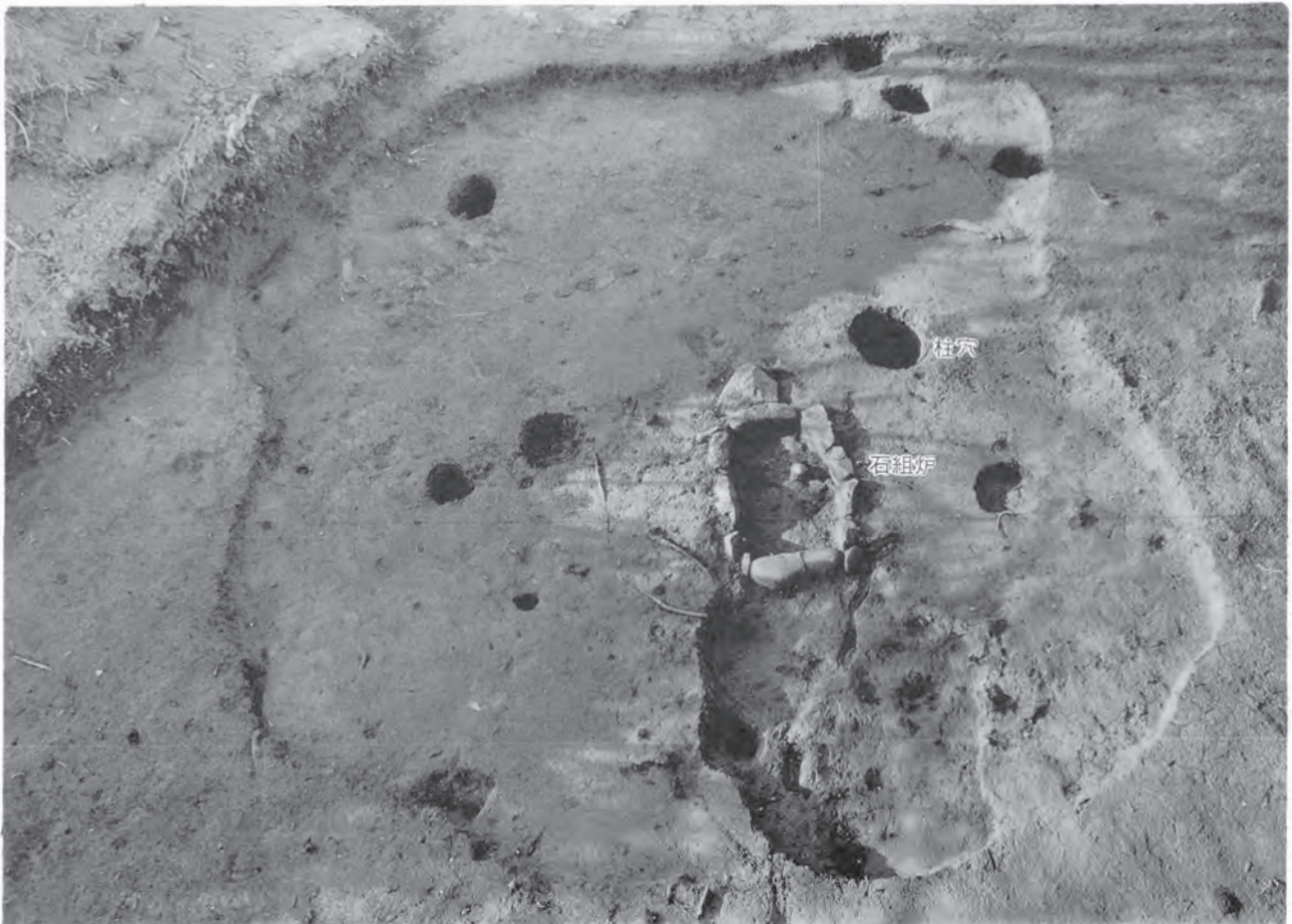


Photo.19 崎山トロノ木Ⅰ遺跡で発掘された縄文時代中期の竪穴式住居跡、石組みの炉が見られる。



鎌ヶ崎館山貝塚から出土した縄文時代中期・後期の土器と土偶（手前右）

Photo.20



鎌ヶ崎館山貝塚から出土した動物の骨 縄文時代の人々が、鹿やイノシシなどを食べていたことがわかる。 Photo.21

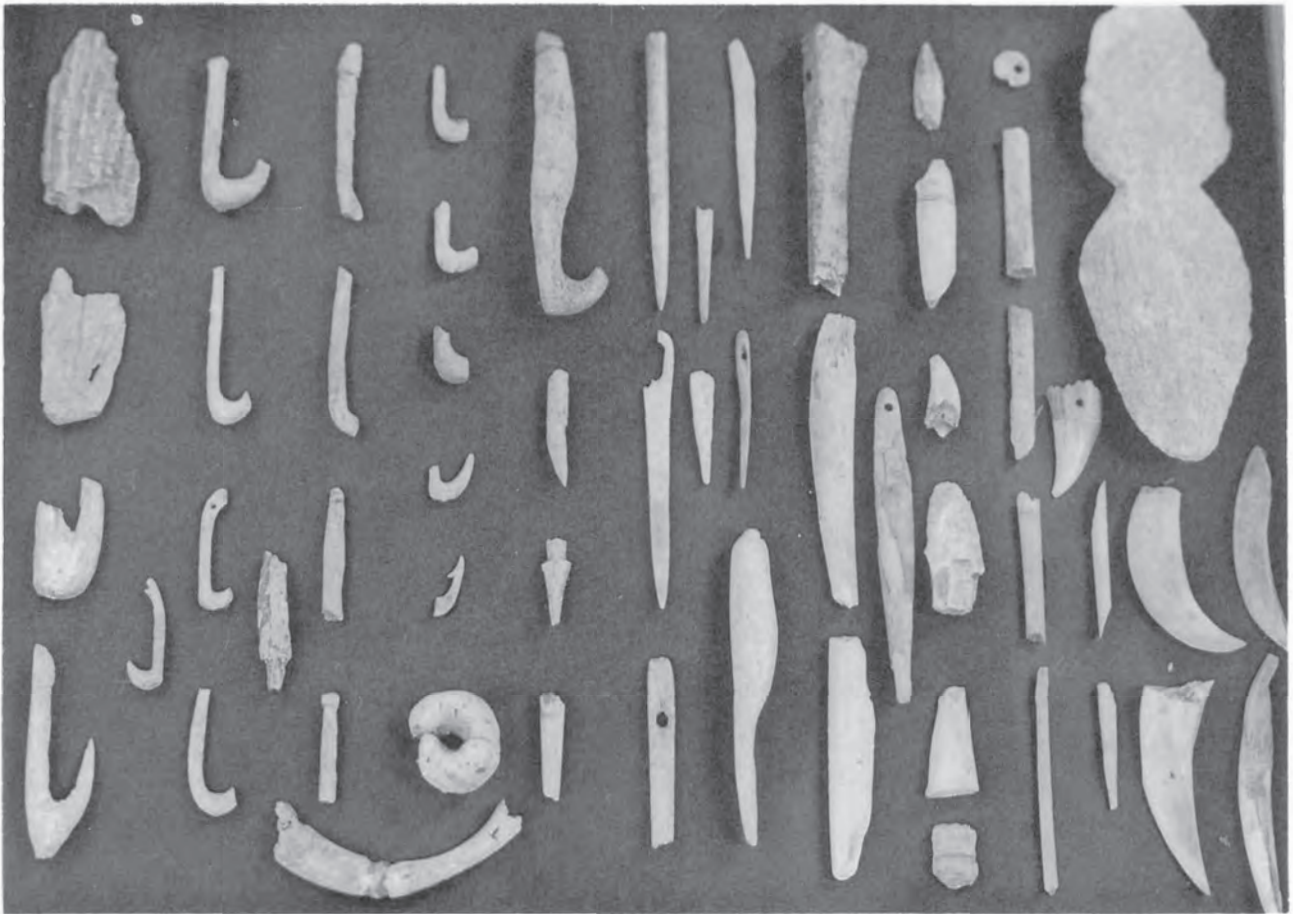


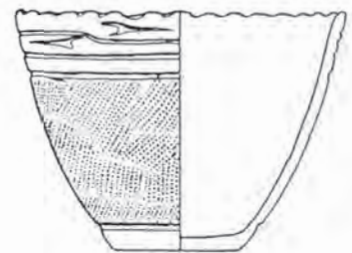
Photo.22 縄文人が使っていた釣針などの骨角器 鹿の角やイノシシの牙などを加工している。



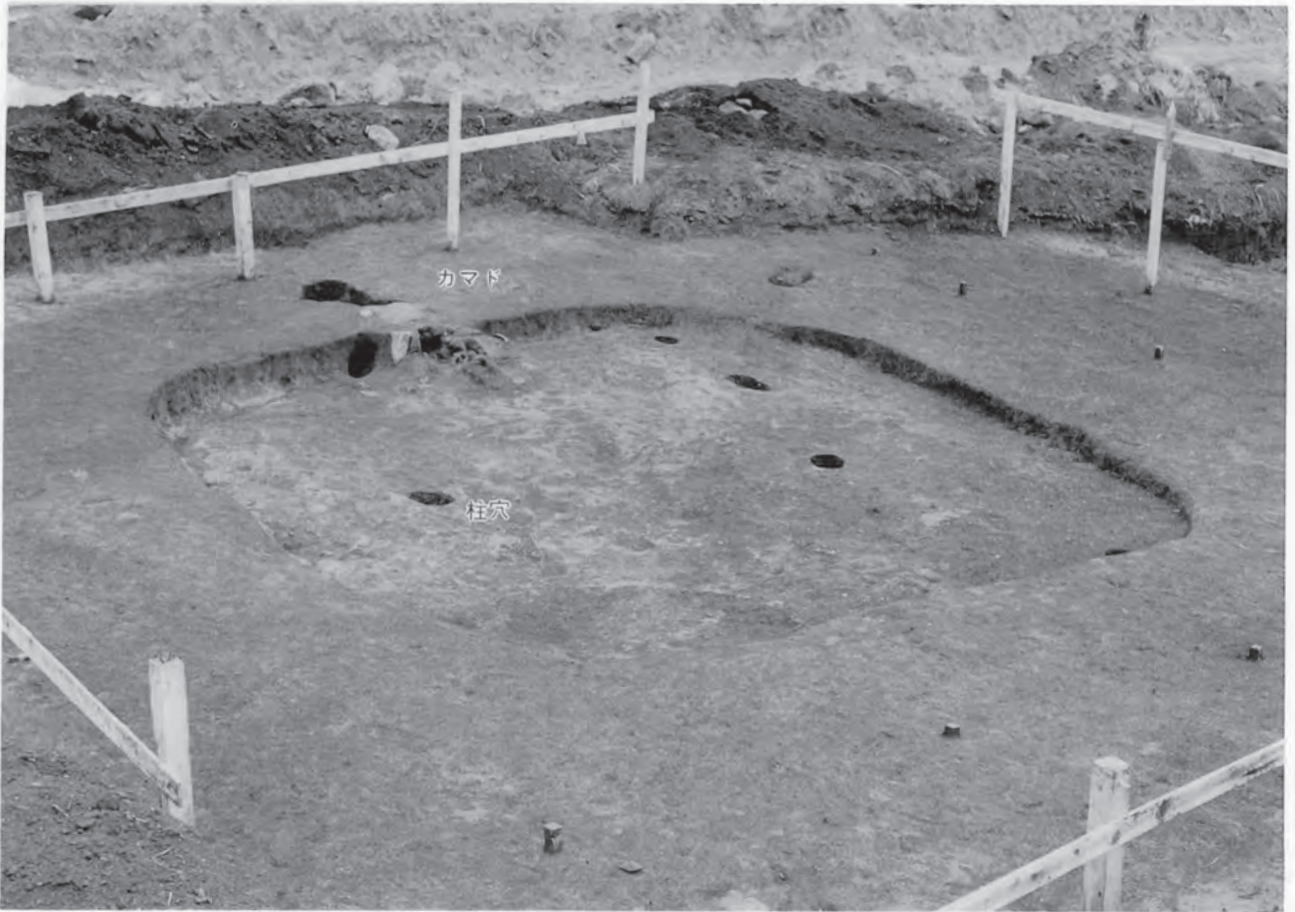
Photo.23-1 大付遺跡から発掘された縄文人



Photo.23-2 抜歯が見られ、縄文時代晩期の土器が添えられている。



人骨といっしょに出土した土器



赤前IV遺跡で発掘された平安時代の住居跡 カマドがつくり付けられている。

Photo.24



泉町狐崎II遺跡で発掘された奈良時代の住居跡 泉町を見おろす尾根の上で見つかった。

Photo.25



Photo.26 磯鶏館山遺跡西区の尾根の上に営まれていた平安時代の村 住居跡が並んでいる。



Photo.27 津軽石地区から出土した奈良時代の「土師器」



水産高校裏の小山に作られた館跡（磯鶏館山遺跡） 主郭や帯郭がはっきりわかる Photo.28



金浜館（金浜老人福祉センターがある場所）の全影 山裾に空堀、頂上に建物跡が見つかった Photo.29



Photo.30 金浜館から出土した天目茶碗 今から350～400年前美濃で作られたものです (原寸大)



Photo.31 一度割れたものをくっつけて直したあとが見られる 当時大切に使われていたことがわかります (原寸大)

宮古市埋蔵文化財調査報告書 9

宮古市遺跡分布図

—昭和60年度版—

1986. 3

発 行 岩手県宮古市教育委員会
宮古市新川町 2 番 1 号

印 刷 株式会社 文 化 印 刷
岩手県宮古市大通 2 丁目 5 の 2
